

五十年のあゆみ

年表 五十年のあゆみ

敬称略

| 昭和47年度 1972年 | 昭和46年度 1971年 | |
|---|--|-----------|
| <p>全家連に加盟する 〔全国理事として松田会長派遣 精神衛生センターと清掃請負業務を契約 決算額二十万四千円〕</p> | <p>七つの病院家族会が集まり、〔熊本県精神障害者家族連合会〕結成 ①県立小川再生院 ②内藤病院 ③清水園 ④上妻病院 ⑤八代更生病院 ⑥熊本保養院 ⑦蓮沢病院 初代県連会長 松田 政雄 副会長 千葉 高義 副会長 古庄又一郎 会費 月額 二十円 個人加入 月額 百円 決算額十一万五千円</p> | 熊本県連の動き |
| <p>○第二回県連家族大会 参加者三百十名 日 時 六月一日 場 所 社会福祉会館 記念講演 「家族会の意義」 講師 杉村 春三（熊本県精神衛生協会理事） 公開座談会 「精神医療の現状と家族会」 大会スローガン ・医療費の十割給付の実現を ・全病院に家族会に結成を ・社会の偏見を乗り越えて進もう家族会 ○全国衛生大会関連行事、全国家族大会 参加者 八百六名 日 時 十月八日 場 所 熊本市民会館 記念講演 「精神障害者の社会復帰制度の実現と問 題点」 講師 菅又 淳（東京都立精神衛生センター所長） 公開座談会 「精神医療と家族会」</p> | <p>○結成大会 参加者三百名 日 時 九月二三日 場 所 県社会福祉会館 記念講演 「精神医療と家族会」 講師 江熊 要一（群馬大学精神科教授） 公開座談会 「今後の精神医療のあり方」 藤田 英介 荒木 邦治 長山 登 大会スローガン ・全病院に家族会を ・偏見をのりこえて立とう家族会 ・医療費の十割給付実現</p> | 大会の内容 |
| <p>・熊本県精神衛生センター設置 ・第八回全国大会（於名古屋市）</p> | <p>・第七回全国大会（於東京）</p> | 精神保健福祉の動き |
| <p>横井庄一軍曹・グアムより帰還 札幌オリンピック開催 浅間山荘事件 ウォーターゲート事件発覚 田中角栄「日本列島改造計画」 喝采／ちあきなおみ</p> | <p>また逢う日まで ／尾崎紀世彦 南沙織が新人賞受賞 環境庁発足</p> | 時の動き |

| 昭和49年度 1974年 | 昭和48年度 1973年 |
|--|---|
| <p>精神衛生家族教室（於精神衛生センター）の新しい試みとして移動による家族教室実施（二ヶ所）</p> <p>①人吉・球磨地方 九月二十一日、於球磨事務所 参加者二百名 講演「精神医療と家族」 講師 吉田 精三（人吉保養院長）</p> <p>②天草地域 十一月十五日於天草事務所 参加者二百五十名 講演「精神医療と家族」 講師 瀬口 三折（天草病院副院長） 家族会運動の成果により「職親制度実現」</p> <p>保安処分制度新設反対の署名運動開始 ※人吉・球磨地域家族会結成（二月十五日） ※菊池地域家族会結成（九月二十一日）</p> <p>会費月額 五十円 決算額 百四十七万千円 第二代会長 千葉 高義 副会長 田代 哲也 大田 玉枝</p> | <p>八月県連事務局移転（内藤病院より熊本市へ） 熊本市紺屋今町四十六、市第三別館内 熊本市家族会事務局に併設 専従の事務局長に田中百合子就任</p> <p>人吉光生病院家族会県連に加盟 家族教室を毎月開催（会場 精神衛生センター） 東ロータリークラブ（会場 ニュースカイホテル）の会合で講演：事務局長 田中百合子 テーマ「精神障害者の実態について」 会費月額 三十円 県運営補助 五万円 決算額 五十七万八千円</p> |
| <p>大会スローガン ・入院費・通院費の軽減を ・社会復帰施設の早期実現を ・全病院に家族会の結成を ・社会の偏見を正していこう、家族から</p> <p>大会テーマ ・社会の偏見を正していこう、家族から ・精神障害者に愛の手を</p> <p>公開座談会「私たちはこれから何をやればよいか」 講師 三浦 節夫（熊本精神病院長）</p> <p>記念講演「心をめぐって」 講師 三浦 節夫（熊本精神病院長）</p> <p>場 所 社会福祉会館 日 時 五月二十五日 参加者三百名</p> | <p>○第三回県連家族大会 参加者三百九十名 日 時 六月十五日 場 所 社会福祉会館 記念講演「精神障害者の社会復帰を阻むもの」 講師 清田 一民（熊本大学医学部精神科助教 授）</p> <p>公開座談会「社会復帰をすすめるにはどうすればよいか」 大会スローガン ・医療費の十割給付実現を ・熊本県に職親制度、中間施設の実現を ・全病院に家族会の結成を ・社会の偏見を正していこう、家族会から</p> |
| <p>・第十回全国大会（於 岡山市） ・精神科作業療法、デイケアが社会保険診療報酬として点数化 ・デイケア施設整備費予算化</p> | <p>精神衛生実態調査 ・七十歳以上の老人医療費無料化 ・第九回全国大会（於 東京都 児童会館） ・第二十一回精神衛生大会（金沢）開催中止により関連行事である全国精神障害者家族大会も中止（青医連の妨害により）</p> |
| <p>長嶋茂雄、巨人現役を引退 襟裳岬／森進一 ルパン島から小野田元少尉帰還 佐藤栄作ノーベル平和賞受賞</p> | <p>ベトナム和平協定調印 変動相場制へ移行 石油ショックで買いだめのため客殺到 夜空／五木ひろし 江崎玲於奈ノーベル物理学受賞 ピカソ死去</p> |

| 昭和51年度 1976年 | 昭和50年度 1975年 | |
|---|---|------------------|
| <p>精神衛生家族教室開催（六ヶ所）宇土、松橋地域・八代地域・菊池地域・荒尾地域・玉名地域・熊本市 精神衛生講演会（熊本市家族会と共催） テーマ「精神障害者をもつ親と子の関係を考える」 講師 鹿子木敏範（熊本大学研究室教授） 菊池地域家族会加盟 十二月 三加和町分会結成 四月 合志町分会結成 十二月 泗水町分会結成 十二月 高田病院家族会結成加盟 五月 熊本県衛生部陳情 「県連分会による補助金・委託事業費の増額」 熊本県より運営助成十万元 県精神衛生協会より五万元 県委託事業費十万元 県共同募金会より六万元 決算額三百五十六千円 第三代会長 田代哲也 副会長 千葉高義 牛島一人 殿村晴輝 才田雅英 事務局長 田中百合子 書記会計 林田協子</p> | <p>三月二十七日 九州地区精神衛生家族研修会（於社会福祉会館） 参加者 三百六十名 ・記念講演「精神医学研究の現状と展望」 講師 宮川太平（熊本大学医学部精神科教授） ・家族体験発表 県議会厚生委員会に請願（十月） 田中厚生大臣へ陳情九月（於熊本市厚生年金会館） 「精神障害者福祉対策について」 熊本県に早急に社会復帰施設を作ってください 人吉球磨地域家族会県連加盟 移動家族教室 菊池、玉名、山鹿で開催 会費月額百円 熊本県より運営助成十万元 家族教室委託事業費五万元 決算額二百三十三万円 会長 千葉高義 副会長 田代哲也 牛島一人</p> | <p>熊本県連の動き</p> |
| <p>○第六回県連家族大会 参加者三百八十名 日 時 七月十日 場 所 社会福祉会館 記念講演 「精神科医療の昔と今」 講 師 立津政順（熊本大学医学部精神科教授） 公開座談会 「社会復帰の諸問題を考える」 大会テーマ ・偏見を正そう、まず家族から ・精神障害者に愛の手を 大会スローガン ・入院費通院治療費の軽減を ・各保健所管内に地域家族会の結成を ・社会復帰施設の早期実現を ・精神障害者の福祉法の制定実現を</p> | <p>○第五回県連家族大会 参加者三百二十名 日 時 五月三十一日 場 所 社会福祉会館 記念講演 「精神障害者を抱える家族の問題点」 講 師 吉田精三（人吉保健院長） 公開座談会 「社会復帰をすすめるにあたって」 大会テーマ ・偏見を正そう、まず家族から ・精神障害者に愛の手を 大会スローガン ・入院費、通院治療費の軽減を ・各保健所管内に地域家族会の結成を ・社会復帰施設の早期実現を ・精神障害者福祉法の制定実現を</p> | <p>大会の内容</p> |
| <p>・精神障害者措置入院制度の適正な運用について（公衆衛生局長通知） ・岡山県浦安荘開所（精神障害者救護施設）</p> | <p>・第十一回全国大会（於 東京都） 熊本県連より十七名参加 ・保健所で精神障害回復者の社会復帰相談事業、デイケア開始 ・障害者の権利宣言（国連決議） ・ねむの木学園長の宮城まり子テレビ初の二十四時間テレビで福祉を訴える</p> | <p>精神保健福祉の動き</p> |
| <p>北の宿から／都はるみ 国内初の五つ子誕生 ロッキード事件で田中前首相逮捕 ポルボト政権成立、大虐殺始まる 毛沢東死去 ジャンボ宝くじ発売</p> | <p>ベトナム戦争終わる 不況深刻化 シクラメンのかほり／布施明 エリザベス英女王夫妻来日 具志堅用高ボクシングWB A世界ジュニアフライ級チャンピオンとなる 新幹線、博多まで開通 日本女子登山隊初のエベレスト登頂成功 国際婦人年世界会議</p> | <p>時の動き</p> |

| 昭和53年度 1978年 | 昭和52年度 1977年 |
|--|--|
| <p>精神衛生家族教室および研修会開催（九ヶ所） 水俣地域・熊本市・菊池地域・飽託、大津、菊陽地域・鹿本地域・阿蘇地域・牛深地域・山鹿市</p> <p>知事陳情 「社会復帰施設建設の促進について」六月 県議会請願 「精神障害者福祉法制定に関する件」十月 県議会で採択、熊本県は内閣総理大臣太平正芳へ意見書提出（十二月二十日）</p> <p>〔玉名地域家族会結成大会・加盟〕三月二十四日 決算額 四百二十四万四千円</p> | <p>精神衛生家族教室および研修会開催（十ヶ所） 上益城地域・鹿本結成準備会・阿蘇地域・熊本市・八代地域・天草地域・荒尾地域・球磨地域・菊池地域・鹿本地域 全家連常務理事として千葉副会長を派遣</p> <p>〔鹿本地域家族会結成大会・加盟〕十二月一日 〔酒井病院家族会結成・加盟〕 新たに職親制度委託事業として十万円助成 決算額 三百六十四万一千円</p> |
| <p>○第八回県連家族大会 参加者六百三十名 日 時 五月三十日 場 所 熊本郵便貯金会館 記念講演 「社会復帰への試み〜症例（失敗）を通しての考察」 講 師 室伏 君士（国立療養所菊池病院長） 公開座談会 「社会復帰について語る」 大会テーマ ・ 偏見を正そう、まず家族から ・ 精神障害者に愛の手を 大会スローガン ・ 入院費通院治療費の軽減を ・ 各保健所管内に地域家族会の結成を ・ 社会復帰施設の早期実現を ・ 精神障害者の福祉法の制定実現を</p> | <p>○第七回県連家族大会（於）参加者五百五十名 日 時 六月十一日 場 所 社会福祉会館 体験発表・公開座談会 記念講演 「青年期自閉症候群の子後」 とくに分裂病について 講 師 清田一民（熊本大学医学部精神科助教授） 大会テーマ ・ 偏見を正そう、まず家族から ・ 精神障害者に愛の手を 大会スローガン ・ 入院費通院治療費の軽減を ・ 各保健所管内に地域家族会の結成を ・ 社会復帰施設の早期実現を ・ 精神障害者の福祉法の制定実現を</p> |
| <p>・ 中央精神衛生審議会が精神障害者社会復帰施設に関する中間報告発表 ・ 厚生省が社会生活適応施設運営要綱発表</p> | <p>・ 精神薄弱者通所援護事業（作業所）国庫補助開始 1ヶ所年額七十万円</p> |
| <p>UFO／ピンクレディー 日中友好条約調印 成田空港開港 初の女子フルマラソン 植村直巳単身初の北極点到達 日本が世界一長寿国となる インベーダーゲーム流行</p> | <p>勝手にしやがれ／沢田研二 航機、日本赤軍がハイジャック カラオケブーム 北海道、有珠山大噴火 王選手国民栄誉賞受賞 参議院選挙で車椅子の八代英太氏当選</p> |

| 熊本県連の動き | 大会の内容 | 精神保健福祉の動き | 時の動き |
|---|---|--|--|
| <p style="text-align: center;">昭和54年度 1979年</p> <p>九月 県精神衛生家族研修会（於社会福祉会館） 参加者三百五十名 テーマ「精神障害者の社会復帰をどうすすめるか」 講師 杉田 兼安（岡山市救護施設浦安荘長） 精神衛生家族教室・研修会の開催（七ヶ所） 鹿本地域（三回）・玉名地域・人吉地域・宇城地域・菊池地域 精神障害者家族アンケート調査に協力 実施主体・国立精神衛生研究所 実施方法・各精神病院から家族に発送（主に分裂病者をもつ家族） 県選出国会議員へ陳情（二月から五月） 精神障害者福祉法制定について 細川護熙・瀬野栄次郎・北口博・森中守義 県衛生部長陳情（十月）齊藤乃夫部長 精神障害者対策について要望 （県下の地域家族会長十四名出席） 宇城・大矢野地域家族会結成大会・加盟 九月一日 松田病院家族会結成加盟 城南病院家族会結成加盟（九月二十七日） 田代県連会長不慮の事故で死去（九月） 県補助金 十五万円（五万円） 決算額 四百五十六万八千円</p> | <p>○第九回県連家族大会 参加者五百五十六名 日 時 五月七日 場 所 熊本郵便貯金会館 記念講演 「時代の流れと精神障害」 講 師 原田正純（熊本大学研究室助教授） 映画上映 「私はこうして治して」 体験発表 「地域家族会結成と今後の課題」 牛島 一人（玉名地域家族会長） 大会テーマ ・ 社会の偏見を正そう、まず家族から 大会スローガン ・ 精神障害者の入院費通院治療費の無料化 ・ 精神障害者福祉法制定実現 ・ 社会復帰施設の早期実現 ・ 各保健所管内に地域家族会の結成 ・ 職親制度の充実徹底</p> | <p>・ 精神衛生社会生活適応施設の整備について予算化 ・ 全国衛生大会再開（於 大阪） ・ 身体障害者通所授産施設創設 ・ 熊本県精神病院協会が社団法人化</p> | <p>東京サミット開催 共通第一次試験実施 ホメイニ師によるイラン革命 米中国交樹立 ソ連、アフガニスタン侵攻 ウォークマン発売</p> |

| 昭和55年度 1980年 | |
|---|--|
| <p>国際障害者年、熊本県民間推進協議会開催（十二月） 家族相談室の設置（相談件数百十一件） 五月 全国精神障害者家族大会参加（於 代々木オリンピックセンター） 熊本県連より二十六名参加</p> <p>・分科会研修 ・全体集会「福祉法の実現をめざして」 ・公開座談会「五党の国会議員が語る「八十年代精神障害者福祉をどう考える」」</p> <p>熊本県内家族会育成を図る事業 市町村分会結成および病院家族会への指導・助言（十七ヶ所に向く）</p> <p>精神衛生家族研修会開催（九月二十日）（於 社会福祉会館） 参加者 三百八十名</p> <p>・講演「心と体」 ・講師 原田 正純（熊本大学体研究室助教授） ・映画上映「微笑の小都市ゲールの里親」</p> <p>家族教室・研修会の開催（七ヶ所） 鹿本・菊池・宇土・玉名・松橋・天草・阿蘇</p> <p>県議会請願（九月） 「精神障害者の医療と福祉に関する請願」 県障害課長陳情（九月） 園田厚生大臣陳情（十月）</p> <p>第4代会長 藤山 隆行 県補助 二十五万円（十万アップ） 決算額四百八十九万九千円</p> | <p>○結成十周年県連家族大会 参加者六百三十名 日 時 六月七日 場 所 熊本郵便貯金会館 表彰者 松田政雄、田代哲也、千葉高義、大田玉枝、光富照子</p> <p>記念講演 「精神科医療について考える」 講 師 榎本 稔（山梨大学助教授） 体験発表 明るい灯を求めて （家族会の歩むべき道）</p> <p>発表者 牛島 一人（玉名地域家族会長） 映画上映 「地域ぐるみのイギリス精神医療」 大会テーマ 「精神障害者福祉法の実現をめざそう」 大会スローガン</p> <p>・精神障害者の入院費・通院治療費の無料化 ・職親制度の充実徹底 ・各保健所管内に地域家族会の結成</p> |
| | <p>・国民年金法改正 ・国際障害者年の推進体制について 閣議決定</p> |
| <p>雨の慕情／八代亜紀</p> | <p>モスクワオリンピック不参加表明 大平首相急死 新宿駅西口バス放火事件（保安処分論議高まる） 奈良、東大寺、昭和の大修復工事 イラン・イラク戦争 国連の婦人差別撤廃条約署名 山口百恵婚約</p> |

| 熊本県連の動き | 大会の内容 | 精神保健福祉の動き | 時の動き |
|---|---|---|--|
| <p>昭和56年度 1981年</p> <p>国際障害者年行事に積極的に参加(推進委員 藤山隆行) 熊本県民間推進協議会(県民会議)の実行委員として県内で他の障害団体と共に、キャラバン隊によるキャンペーン活動を行う(五月)(田中・林田)</p> <p>熊本県主催(十二月六日) 国際障害者年熊本県福祉大会(於 熊本市市民会館ホール) 熊本県連より百五十名参加 県下唯一の団体表彰を受賞する 全国大会参加 十月(於 静岡市民文化会館) 熊本県連より百二十七名参加</p> <p>天草地域家族会結成大会・加盟十一月二十八日 精神衛生家族教室開催(八ヶ所) 相談事業の実施(年間九十九件) 第二十九回全国精神衛生大会(於福岡市)で、熊本県連が日本精神衛生連盟会長賞を受賞する 保安処分制度反対声明・熊本県選出国會議員に要請</p> <p>県補助金二十五万円が県精神衛生協会を經由して支給となる 県家族教室委託事業費二十万円(十万円アップ) 決算額 四百九十二万五千円</p> | <p>○第十一回県連家族大会(於)参加者五百四十名 日 時 六月六日 場 所 熊本郵便貯金会館 記念講演 「健康な心とは」 講 師 立津 政順(前熊本大学医学部精神科助教授) 提 言 「精神障害者の社会的自立をめざして」 滝沢 武久(全家連事務局長) 大会テーマ「精神障害者の社会参加と平等をめざして」</p> <p>○国際障害者年自主事業 精神衛生文化講演会開催 参加者四百五十名 日 時 不明 場 所 熊本市市民会館小ホール 講演 I 「社会と精神医学」 講 師 原田 正純(熊本大学医学部研究室助教) 講演 II 「人間だけが共に泣く」 講 師 高千穂 正史(仏厳寺住職) 映画上映 「微笑の小都市ゲールの里親制度」</p> | <p>国際障害者年始まる 十都道府県議会議長会で福祉法制定促進決議、障害者の完全参加と平等の実現をはかる決議が国会で採択</p> <ul style="list-style-type: none"> 熊本県あかね荘開設(精神衛生社会生活適応施設) 国際障害者年、精神衛生国際セミナー開催 日本精神神経学会が、精神障害者の福祉に関する見解を発表 北九州市デイケアセンター開所 マテッセン博士(ベルギー国立病院長)講演 全家連川村理事長、内閣総理大臣賞受賞 | <p>国際連合は、一九八二年を「国際障害者年」とすることを決議。テーマは「完全参加と平等」</p> <p>窓際のトットちゃんや戦後最大のベストセラーとなる神戸ポトピア開催</p> <p>ルビーの指輪/寺尾聡</p> <p>ローマ法王来日</p> <p>行政改革推進本部発足</p> <p>仏大統領にミッテラン当選</p> <p>福井謙一博士ノーベル賞受賞</p> <p>沖繩本島で新種の鳥、ヤンバルクイナ発見</p> <p>ポーランド労組(連帯)ワレサ議長来日</p> |

| | |
|---|---|
| 昭和57年度 1982年 | |
| ・相談事業の実施（年間百四件） 「障害者の日」制定記念事業 きぼうの集い開催（十二月 於熊本市産文会館） ・家族教室、研修会開催（八ヶ所） 宇城、本渡、山鹿、玉名（二回）、大矢野、人吉、鹿本 全国大会参加（四月 於大阪市）熊本県連より三十七名参加 加 全国家族会指導者研修開催 熊本県連より会長他五名参加 全家連主催九州ブロック会議開催 （十二月 於福岡市都久志会館） 熊本県心身障害者対策協議会開催（三月） 牛島会長を派遣 八代地域家族会発足 五月一日 決算額 四百九十七万円 | ○第十二回県連家族大会 参加者六百六十名 日 時 六月二十八日 場 所 熊本郵便貯金会館ホール 記念講演 「私の精神医学」 講 師 宮川 太平（熊本大学医学部精神科教授） 提 言 「家族会、これからの課題」 林田 協子（県連事務局） 大会スローガン「国際障害者年の精神を生かそう精 神障害者のために」 |
| ・老人保健法成立 ・通所患者リハビリテーション事業 開始 | 羽田沖、日航機墜落事故 （機長の心神喪失による異常操作） 戸塚ヨットスクールで訓練 生変死（訓練の名のもとに リンチ加える） テレフォンカード発行 五百円硬貨発行 長崎大水害 東北・上越新幹線開業 東京デイズニールランド開園 フォークランド紛争、英国 とアルゼンチン交戦 ホテルニュージャパン火災 北酒場／細川たかし |

| 熊本県連の動き | 大会の内容 | 精神保健福祉の動き | 時の動き |
|--|---|---|--|
| <p>昭和58年度 1983年</p> <p>熊本県連主催九州ブロック家族指導者研修会（於熊本市みゆき会館） 相談事業の実施（年間六十四件） 家族教室・研修会開催（十二ヶ所） 宇城（二回）、熊本市、本渡、玉名（二回）、天草、八代、荒尾、山鹿、人吉、牛深</p> <p>※精神障害者福祉法実現に向けて署名活動 全国大会参加（於千葉分科会館） 熊本県連より二十八名参加</p> <p>知事陳情（九月十三日） ・共同作業所運営費助成 ・当県連への助成金増額</p> <p>県議会傍聴十一月二十九日（一般質問）精神障害者対策について県議会議員 阿曾田 清</p> <p>第五代会長 牛島一人 副会長 藤山隆行 児玉誉至夫 本郷泰寛</p> <p>【事務局移転（熊本市花畑三―熊本市花畑別館）】 会費 百五十円 決算額 六百九十七万円</p> | <p>○第十三回県連総会・意見発表の開催 参加者三百五十名 日 時 六月三日 場 所 市民会館大会議室</p> <p>総会行事 意見発表 精神障害と苦節二十年（倉岡吾一） 精神障害者の福祉にのぞむ（牛島一人） 総会スローガン「まず参加、兄弟も一緒に」</p> <p>○第十三回県連家族大会 参加者五百名 日 時 九月二十四日 場 所 熊本市民会館大会議室</p> <p>記念講演 「精神科医療のよろこびとかなしみ」 講 師 犬尾 貞文（鳥栖市犬尾病院長） 家族会からの提言 田中百合子（県連事務局）</p> | <p>・精神衛生実態調査（十都道府県で未実施） ・公衆衛生審議会、精神衛生部会に緊急医療体制専門委員会設置 ・ILO総会で職業リハビリテーションおよび雇用（心身障害者）条約勧告 ・労働省職業安定局に障害者雇用対策課設置</p> <p>※精神障害者社会復帰促進議員懇話会（精社懇）発足</p> | <p>参議院で初の比例代表選挙実施 大韓航空機撃墜事件 フィリピンで野党アキノ暗殺 ロッキード事件第一審有罪判決 日本初の試験管ベビー誕生 OA機器急速に普及 おしんブーム</p> |

| 昭和59年度 1984年 | | | |
|--|---|---|---|
| <p>精神障害者福祉法制定実現に向けた全国一斉署名活動 実施期間 昭和五十九年三月末～同年八月末日まで 目標 五十万人 熊本県連 二万八千人</p> <p>相談事業の実施 ルポ精神医療（熊日新聞）の影響で、例年になく相談件数が増加（年間百四十一件）</p> <p>全家連国会請願全国代表者会議（十二月） 場所 東京都全国都市会館 熊本県連より牛島、田中出席 開催のねらい</p> <p>① 国会請願署名達成実行宣言 ② 昭和六十年社会復帰関係予算獲得 ③ 国際障害者年運動目標（完全参加と平等）達成</p> <p>全国大会参加（十一月 於北九州市九州産業年金会館） 熊本県連より百九十四名参加 家族教室・研修会開催（十三ヶ所）</p> <p>熊本県議会傍聴（三月五日） 精神障害対策について柴田徳義議員が細川知事に見解を求めた</p> <p>八代病院家族会・坂本病院家族会が県連加盟</p> <p>会費 月額一七〇円 県補助三十万円（五万円アップ） 決算額七百八十三万五千円</p> | | | |
| | <p>○第十四回県連家族大会 参加者五百八十名 日 時 六月八日 場 所 熊本郵便貯金会館 記念講演 「精神医療の近代化とその問題点」 講師 桜井 岡南男（九州大学医学部精神科名誉教授） 提 言 「家族会からのメッセージ」 本間長吾（全家連理事長） 大会テーマ 「福祉法の実現をめざそう」</p> <p>○精神衛生週間行事 精神衛生講演会の開催 参加者三百九十名 日 時 十一月七日 場 所 県社会福祉会館 基調講演 「社会復帰活動の考え方と現況」 講師 荒木 邦治（内藤病院長） 公開座談会 「精神障害者の社会復帰を考える」</p> | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮精神病院不祥事件 ・「精神病院に対する指導監督等の強化徹底について」 ・公衆衛生局精神衛生課を保健医務局精神保健課に改称 ・厚生省、小規模作業所調査実施 ・障害者インターナショナル第一回国内会議開催 | |
| | | | <p>グリコ・森永脅迫事件 新紙幣発行（一万円） NHK衛星放送開始 日本が長寿世界一（一人暮らし老人百万人突破） 長良川艶歌／五木ひろし</p> |

| 昭和60年度 1985年 | | 熊本県連の動き | 大会の内容 | 精神保健福祉の動き | 時の動き |
|---|--|---|---|--|------|
| <p>相談事業の実施</p> <p>家族教室・研修会開催（十一ヶ所） 宇城・山鹿・八代・菊池（二回）・天草・玉名・本渡・牛深・人吉・御船</p> <p>全国精神障害者家族福祉ニーズ調査実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体 全家連 ・調査数 一万五千人が対象（熊本県連割当数八百五十二人） ・実施期間 十月二十日～十二月五日 ・回収率 七十七・二% <p>全国衛生大会開催（十一月 於広島市） 大会式典に於いて本会は精神衛生推進事業の優良団体として、厚生大臣賞の榮譽に輝く</p> <p>全国緊急代表者会議（四月 於東京） 精神衛生法改正に伴い、厚生省へ意見書提出（本会から田中事務局長出席）</p> <p>陳情活動</p> <p>①熊本県議会議員（九月十九日） 「精神障害者を考える会、発起人会」に陳情 発起人メンバー・鏡昭二・橋本太郎・三角保之・阿曾田清</p> <p>②国会議員（八月三日） 田代由紀男議員に対し、精神障害者対策、特に福祉法実現について</p> <p>家族教室委託事業 三十万円（十万円アップ） 決算額 八百九万六千円</p> | | <p>○結成十五周年県連家族大会 参加者四百五十名 日 時 六月十四日 場 所 熊本郵便貯金会館 十五周年記念にあたり、感謝状贈呈 対象者七名（関係者二名、家族会五名）</p> <p>記念講演 「心の挫折と心の病い」 講師 坂口 信貴（北九州市立デイケアセン ター所長）</p> <p>大会テーマ 「福祉法の実現をめざそう！よりよい精神医療の実現と福祉政策の向上をもとめて」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・厚生省精神衛生実態調査結果公表 に対し、全家連見解発表 ・国連人権委員会に於いて、国際法 律家委員会が精神衛生法改正発言 ・障害者インターナショナル調査団 来日 ・精神障害者福祉法制定実現に向け た五十万人国会請願が衆議院社労 委員会で採択 ・五月二十九日全家連が組織名称変 更「全国精神障害者家族会連合 会」となる ・全家連二十周年記念募金開始 ・精神病院入院患者の通信・面会に 関するガイドライン通達 ・NHKに番組編成に関する要望書 （社会復帰活動の紹介等） ・世界精神保健会議総会で国連事務 長に「精神障害者の推進に関する ブライトン宣言」提出 | <p>つくば万博</p> <p>電電公社、専売公社民営化</p> <p>日航ジャンボ機墜落、死者 五百四十名</p> <p>WHO国別推定平均寿命発 表</p> <p>男女雇用機会均等法成立</p> <p>全国の小学校で「いじめ」 多発</p> <p>ファミコンブーム</p> <p>松田聖子結婚</p> | |

| 昭和61年度 1986年 | | | |
|--|--|---|--|
| <p>熊本県主催 国際障害者年中間年記念 ふれあいフェスティバル八六熊本（十二月 於熊本市市民会館）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念講演「みんなで胸をはって歩こう」 講師 黒田 清（読売新聞大阪支社編集局長） ・ふれあいパレード、ふれあいコーナーがあり、熊本県連から多数参加 指導者一泊研修会開催（十二月 於熊本市みゆき会館） 参加者四百五十名 ・基調報告「家族会活動を顧みてこれからの展望」田中百合子（県連事務局長） 家族教室、研修会開催（十ヶ所） ・宇城（二回）・山鹿・菊池・玉名（二回）・本渡・牛深・八代・人吉 <p>五月三十日 今井厚生大臣陳情（於熊本市厚生年金会館） 「精神障害者社会復帰対策促進について」</p> <p>十月二日 県議会請願 「精神障害者の医療と福祉に関する請願」 牛島会長他十六名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者福祉工場設置のお願い ・県立富合病院に作業療法士、心理士採用のお願い <p>第二十回全国大会参加（十月 於東京旧日比谷公会堂） 県連より三十二名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会式典での受賞者（有働寛、児玉誉至夫、反後好恵） ・記念講演「精神障害者の社会復帰をいかに促進するか」 講師 林 宗義（カナダプリンティッシュ大学教授、世界精神衛生連盟総裁） 九州ブロック指導者研修会参加（五月 於諫早文化センター） 参加者 牛島会長他五名 決算額 八百二十七万九千円 | <p>○第十六回県連家族大会 参加者五百五十名 日 時 五月九日 場 所 熊本郵便貯金会館</p> <p>記念講演 「精神障害者が地域社会で生きていくために」 講 師 八代 英太（国会議員） 藤山 隆行（県連副会長） 体験発表 「息子と共にこの道を歩む」 大谷 テーマ 「福祉法の実現をめざそうよりよい精神医療の実現と福祉対策の向上をもとめて」</p> <p>○精神衛生講演会 参加者百五十名 日 時 十二月（詳細不明） 場 所 社会福祉会館</p> <p>講演 I 「心と体の健康」 講 師 米満 弘之（熊本機能病院長）</p> <p>講演 II 「精神科診療の最近の動向」 講 師 牛島 定信（福岡大学医学部精神科教授）</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・全家連は、厚生省に精神衛生法改正への意見書を提出 ・全家連主催により、精神障害者福祉法制定緊急全国代表者会議開催 ・公衆衛生審議会、精神衛生部会が、精神衛生法改正の中間メモを發表 ・国立精神神経センターを設立 ・障害者基礎年金制度施行 ・精神科集団療法、ナイトケア、訪問看護指導料が社会保険診療報酬として点数化 ・全家連主催第一回精神障害者の社会参加と社会復帰を促進する会議（通所リハビリテーション会議）開催 ・全国知事、都道府県議会議長、市町村長、市町村議会議長会で、「精神障害者の社会復帰」について、国の責任を強調 | <p>東京サミット開始 チエルノブイリ原発事故 チャールズ皇太子、ダイアナ妃来日 六十歳定年法成立 メーデー百周年記念 アキノ大統領就任 中学生がいじめを苦に自殺 デイザイア／中森明菜</p> |

| 熊本県連の動き | 大会の内容 | 精神保健福祉の動き | 時の動き |
|---|---|---|---|
| <p>昭和62年度 1987年</p> <p>相談事業の実施(年間百十一件) 家族教室・研修会開催(十ヶ所) 宇城(二回)、山鹿、菊池、玉名(二回)、天草、人吉、熊本市</p> <p>精神衛生講演会開催(於社会福祉会館) 参加者三百五十名</p> <p>・講演Ⅰ「精神機能障害者の地域リハビリテーション」 講師 清田 一民(城南病院精神科部長)</p> <p>・講演Ⅱ「ともいきの命」 講師 松原 正岳(本渡市慈眼院住職)</p> <p>全国大会参加(十一月 於新潟県民会館) 本会から二十七名参加</p> <p>陳情活動 衛生部陳情(十一月) 衛生部陳情、地元国会議員陳情(六月、九月)</p> <p>共同募金会補助金三十万円(十万アップ) 決算額 七百七十六万七千円</p> | <p>○第十七回県連家族大会 参加者五百名 日 時 五月二十三日 場 所 熊本郵便貯金会館</p> <p>記念講演 「精神障害を克服する道」 — 家族は何をすべきか —</p> <p>講師 西園 昌久(福岡大学医学部精神科教授) 映画上映 「人間らしく生きたい」 — 心病む人たちの訴え —</p> <p>大会テーマ 「福祉法の実現をめざそう」 — よりよい精神医療の充実と福祉政策の向上をもとめて —</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・精神衛生法を精神保健法に改正 ・入院患者の人権擁護制度整備 ・社会復帰制度の創設 ・国に於いて精神障害者小規模作業所助成事業を開始 ・全国精神衛生職親会発足 ・斉藤厚生大臣小規模作業所視察(東京さくら美術工房) ・国際障害者年、中間年記念式典に於いて、精神障害当事者三名が自主更生者として総理大臣賞受賞 ・厚生保健医療局長「精神障害者に係る資格制限。利用制限について」通知 ・保健所においてデイケア実施 ・社会福祉士法及び介護福祉士法成立 | <p>国鉄分割民営化</p> <p>NTT株初上場高値を呼ぶ</p> <p>マサチューセッツ州立工科大学教授にノーベル賞</p> <p>労組再編「連合」発足</p> <p>地価高騰</p> <p>ソ連ベレストロイカ始動</p> <p>愚か者／近藤真彦</p> |

| 昭和63年度 1988年 | |
|--|--|
| <p>共同作業所事業開始(三ヶ所) 本会が設立、地域家族会がその運営にあたる 玉名きぼうの家(四月一日) 天草きぼうの家(十月一日) 熊本きぼうの家(平成元年二月十三日) 相談事業の実施(年間百二十六件) 家族教室、研修会開催(十二ヶ所) ・熊本市(二回)・宇城(二回)・天草(二回)・人吉(二回)・山鹿・菊池・八代・玉名 細川知事陳情(七月二十七日) 紹介議員 阿曾田 清(県議会厚生委員長) 精神保健法学習会(二月十一日 於熊本市みゆき会館 参加者百五十名) 講演Ⅰ「精神保健法改正後の状況と未来」 講師 荒木 邦治(県精神病院協会長) 講演Ⅱ「精神保健法成立の経緯」 講師 八代 英太(参議院議員、社会労働委員長) 全国大会(十一月 於山口県) 参加 熊本県連から八十名参加 大会式典に於いて、県連から二名表彰された 総理府主催西日本地区障害者対策推進地域会議(十月 開催地 熊本市) シンポジウム「地域福祉を考える」 精神障害者家族会の立場から提言 参加者 二百五十名 県共同募金会より三十五万円(五万円アップ) 会報きぼう十一号発行 決算額 千二百六十三万六千円</p> | <p>○第十八回県連家族大会 参加者四百八十名 日 時 五月二十一日 場 所 熊本郵便貯金会館 記念講演「精神障害者医療と家族会活動」 講師 秋元 波留夫(東京大学医学部精神科教授) 家族からの提言 ○精神保健週間行事「精神保健講演会」の開催 参加者三百五十名 日 時 十一月四日 場 所 熊本市民会館 シンポジウム「精神障害者の社会復帰を考える」 病院の実践から 吉住 昭(国立肥前療養所外来部長) 回復者の立場から「歩いてきた道、これから歩く道」 小坂 功(神奈川県回復者クラブあすなろ会長) 家族会の立場から「これからの家族会活動」 林田 協子(県連事務局)</p> |
| <p>・精神保健法施行 ・精神障害者社会復帰施設設置及び運営について(保健医療局通知) ・障害者雇用促進法施行 ・社会福祉士法および介護福祉法施行 ・熊本県精神衛生センターから熊本県精神保健センターへ改称 ・熊本県精神衛生協会から熊本県精神保健協会へ改称</p> | <p>東京ドーム完成 マル優制度廃止 イラン・イラク停戦協定成立 天皇の容態悪化で自粛ムード ソウルオリンピック開催 リクルート汚職事件 パラダイス銀河／光ゲンジ</p> |

| 昭和64年・平成元年度 1989年 | | 熊本県連の動き | 大会の内容 | 精神保健福祉の動き | 時の動き |
|--|--|--|---|--|------|
| <p>相談事業の実施(年間百三十一件) 家族教室・研修会開催(十三カ所) 精神保健審議会の開催(牛島会長出席) 全家連評議員会および代表者会議(熊本県連より評議員三名選出) ・全家連理事長に青野敏夫氏選出 ・九州地区理事に佐々木ムメノ氏選出 国際障害者年記念ふれあいフェスティバル 熊本県主催(於 県立劇場) 本会役員全員参加 全国大会参加(於 山梨県) 熊本県連より三十四名参加 九州ブロック指導者研修会(於 鹿児島県) 熊本県連より十名参加 共同作業所二カ所開設 ・人吉、球磨きぼうの家(二月一日) ・八代きぼうの家(三月十二日) 熊本きぼうの家設置、運営 陳情活動 ・県衛生部長陳情(九月二十六日) ・福島労働大臣陳情(十一月十三日 於 東京) ・各市町村および県精神病院協会に全国大会の寄付をお願いした(十月～一月) 会報きぼう十二号発行 決算額 千四百八十四万二千元</p> | | <p>○第十九回県連家族大会 参加者四百五十名 日 時 五月二十日 場 所 熊本郵便貯金会館 記念講演 「心病む人々のとくえ」 講 師 竹村 堅次(昭和大学医学部精神科教授) 家族会からの提言 大会スローガン「精神障害者の理解を地域にひろげよう」 ○精神保健講演会 日 時 不明 場 所 熊本市民会館 講 演 「精神病はどこまで治るか」 講 師 稲永 和豊(久留米大学精神科名誉教授) 提 言 「家族会と社会復帰運動」</p> | <p>・精神障害者に対する所得税法、地方税法上の障害者控除適用について(保健医療局長通達) ・厚生省社会復帰施設運営方針(チェックリスト)発表 ・全家連「精神保健法見直しで保護義務規定緩和ないし撤廃等」を代表者会議で決議 ・全家連、精神障害者へのJ-R運賃割引に関する要望書提出 ・日本精神神経学会等に精神病診断用語(人格の崩壊、精神分裂病等)の表現改善検討依頼 ・全家連、日本新聞協会に病名報道など検討を申し入れる</p> | <p>昭和天皇崩御につき、元号が平成となる 東欧諸国で市場経済原理消費税三%となる オゾン層破壊等の地球規模での環境破壊問題深刻化 原子力発電所反対問題活発化 中国天安門事件発生 参議院選挙で自民党敗北、史上初の与野党逆転 総評解散、全労連等に改変 ベルリンの壁、崩壊により東西ドイツ通行自由化 国連「児童の権利に関する条約(子供権利条約)」採択 交通事故死者数十五年間で最悪記録更新 高齢者保健福祉推進十カ年戦略(ゴールドプラン)策定 エイズ予防法制定 手塚治虫、松下幸之助、美空ひばり死去(昭和時代の終わり象徴)</p> | |

| 平成2年度 1990年 | | | |
|--|--|--|--|
| <p>※社団法人設立により、熊本県精神障害者加速会連合会より社団法人熊本県精神障害者福祉会連合会に改称</p> <p>七月一日 設立総会（於熊本市市民会館）</p> <p>七月十八日 県からの法人認可</p> <p>※第二十三回全国精神障害者家族大会開催（十月十七日、十八日於熊本県立劇場）</p> <p>参加者二千五百名</p> <p>大会テーマ「家族のめざめは社会を変える」</p> <p>・第一日目 公開座談会</p> <p>大会式典での熊本県連での表彰者</p> <p>厚生大臣表彰 三村 孝一（蓮沢病院長）</p> <p>全家連理事賞</p> <p>①尾方 歌子（元人吉保健所婦長）</p> <p>②東田 厚（城南病院家族会長）</p> <p>③増岡 カズエ（県連役員）</p> <p>記念講演</p> <p>テーマ「朝のこない夜はない」</p> <p>講師 俵 萌子（評論家）</p> <p>・第二日目 分科会研修（四分科会）</p> <p>第一分科会「これからの家族会活動はどうあるべきか」</p> <p>第二分科会「共同作業所の設立、運営、方向性を考える」</p> <p>第三分科会「福祉法の実現に向けて、国、県レベルの家族活動の展開」</p> <p>第四分科会「社会復帰施設づくりをすすめる」</p> <p>※共同作業所の設置及び運営補助金状況</p> <p>ア、小規模作業所運営事業（全家連より一ヶ所八十万円×四ヶ所）</p> <p>対象作業所 やまびこ作業所</p> | <p>○第二十回県連家族大会 参加者五百名</p> <p>日 時 五月十二日</p> <p>場 所 熊本県郵便貯金会館</p> <p>記念講演 「長期療養者の自立を考える」</p> <p>講 師 岡上 和雄（日本社会事業大学教授）</p> <p>公開座談会 「精神障害者の社会復帰をすすめる」</p> <p>座 長 三村 孝一（蓮沢病院長）</p> <p>・医師の立場 古賀 靖人（明生病院長）</p> <p>・保健婦の立場 恒松 ちひろ（人吉保健所保健婦）</p> <p>・ソーシャルワーカーの立場 今野えり子（蓮沢病院ソーシャルワーカー）</p> <p>・家族会の立場 林田協子（県連事務局）</p> | <p>・国際障害者年、日本推進協議会が、精神障害者の福祉制度確立のためのパンフレット作成</p> <p>・全国精神障害者社会復帰施設協議会設立（会長 谷中輝雄）</p> <p>・心の健康推進モデル事業の実施要項について（保健医療局長通知）</p> <p>・障害を持つアメリカ法（ADA）A法成立</p> <p>・厚生省統計より、躁うつ病を気分（感情）障害に変更</p> <p>・分裂病などの精神病性障害と区別</p> <p>・精神障害者に対する相続税法上の障害者控除などの適用</p> | <p>本島長崎市長右翼に狙撃される</p> <p>ソ連共産党指導性を放棄市場経済移行決意</p> <p>横綱千代の富士千勝記録更新</p> <p>東西ドイツ統合</p> <p>TBS記者日本人初の宇宙へ</p> <p>花の万博開催</p> <p>二十一年ぶりに全国で看護婦ストライキ</p> <p>長崎雲仙普賢岳が二百年ぶりに噴火</p> <p>バブル崩壊</p> <p>おどるボンポコリン／B・Bクイーンズ</p> |

| 熊 本 県 連 の 動 き | 大 会 の 内 容 | 精 神 保 健 福 祉 の 動 き | 時 の 動 き |
|--|-----------|-------------------|---------|
| <p style="text-align: center;">平成2年度 1990年</p> <p>玉名さほうの家 天草さほうの家 熊本さほうの家 イ、共同作業所新設補助事業 熊本さほうの家開設 一月三十日（熊本県より一ヶ所 百五十万円） ウ、共同作業所運営補助事業（熊本県より一ヶ所八十万円 ×六ヶ所） 対象作業所 やまびこ作業所 玉名さほうの家 天草さほうの家 熊本さほうの家 人吉球磨さほうの家</p> <p>九州ブロック家族相談員研修会（二月 於別府市）参加者 九名 阿蘇地域家族会加盟 ※講演と映画の集い （二月 於熊本市図書館ホール） 日本精神衛生連盟共催 テーマ「精神障害者の社会参加をすすめる」 講演「春はまだ来ないけど」 講師 谷中 輝雄（やどかりの里理事長） 映画上映「百五十万人の訴え―精神障害者の人権と差別を 考える―」</p> <p>会報さほう十三号発行 決算額千八百七十二万九千円</p> | | | |

| 平成3年度 1991年 | | | |
|---|--|--|------------------------------|
| <p>家族教室・研修会開催（県内五ヶ所で実施） 相談事業の実施（年間二百十件） 県連家族会指導者一泊研修会（十二月八日、九日 於 熊本市）参加者五十五名 ・特別講演「マスコミから見た精神医療」 講師 春木 進（熊日新聞記者） ・特別講演「精神保健の見直し・保護義務者を考える」 講師 浅沼 守男（全家連常務理事） ・二日目は全員、県主催による国際障害者年「ふれあいフェスティバル」に参加 全国大会参加（十月 於 宮城県仙台市）熊本県連より二十一名参加 全家連主催九州ブロック家族相談員、共同作業所施設職員研修会（一月 於 北九州市） 参加者十名 ・共同作業所の設置および運営補助金状況 ・小規模作業所（一ヶ所九十万円×五ヶ所） ・共同作業所運営補助事業（一ヶ所九十万円×七ヶ所） 知事陳情（七月）熊本市長陳情（一月） 家族会館、通所授産施設建設について 家族会館建設につき、有志が土地を購入し法人に寄付 共同作業所きぼうの家連絡会の定期開催 会報きぼう十四号発行 決算額二千四百万二千円</p> | | | |
| | <p>○第二十二回県連家族大会 参加者五百五十名 日 時 九月二十四日 場 所 熊本郵便貯金会館 記念講演「私の精神医療、家族に期待すること」 講師 谷野 亮爾（富山県谷野呉山病院院長） 提 言「家族会がめざすもの」 田中百合子（県連合会 副会長） 大会テーマ「福祉をすすめよう、家族の手から」 ○共同作業所きぼうの家交流会（日本精神衛生連盟 助成）参加者百三十名 日 時 平成四年二月（詳細不明） 場 所 三田屋くまもと ・第一部 音楽を通しての交流会（シャンソンを聴く） ・第二部 スポーツ大会（於熊本交通センターボウル）（みんなでボウリングを楽しむ）</p> | | |
| | | <p>・老人保健法改正 ・「地域精神保健福祉対策に関する中間意見」および「処遇困難な患者に関する中間意見」を公衆衛生審議会意見具申 ・国連総会にて「精神病患者保護および精神保健ケアのための国連原則」全会一致採択 ・精神薄弱者運賃割引実施</p> | |
| | <p>愛は勝つ／カン 最高 登校拒否児童の増加が過去最高</p> | <p>日 東京都新都市庁舎開庁 ゴルバチョフソ連大統領来日 雲仙普賢岳噴火 育児休業法施行</p> | <p>多国籍軍イラク爆撃 湾岸戦争始まる</p> |

| 熊本県連の動き | 大会の内容 | 精神保健福祉の動き | 時の動き |
|---|---|--|---|
| <p>平成4年度 1992年</p> <p>陳情活動 ①衛生部長陳情（八月） （あかね荘施設拡充について） ②熊本市長陳情（二月） （通所授産施設運営費について） 家族教室、研修会開催（県内八ヶ所で実施） 全国大会参加（十一月 於東京日比谷公会堂）熊本県連から二十四名参加 ・記念講演「精神障害者の生活と人権」 講師 山下 利政（全家連理事長） 牛島会長が県知事賞受賞</p> <p>※全家連主催九州ブロック家族相談員研修会（一月 於佐賀市はがくれ荘） 熊本県連より十名参加</p> <p>※共同作業所の設置および運営補助 ・小規模作業所運営補助事業（九十万円×七ヶ所） ・共同社業所運営補助事業（九十万円×七ヶ所）</p> <p>※三菱財団助成により精神障害者小規模作業所を中心に地域ケア体制の推進が本人、家族精神保健医療従事者、地域ボランティアに及ぼす効果について、二年間に亘り調査、研究を行い、本年一月報告書を刊行した</p> <p>会報さぼう十五号発行 決算額二千九十六万二千円</p> | <p>大会の内容</p> <p>○第二十二回県連家族大会 参加者五百名 日 時 五月二十八日 場 所 メルパルク熊本 記念講演テーマ「精神障害の生活をしやすくするために」 講師 荒木 邦治（県精神病院協会会長） 提 言 「精神保健法の見直しを考える」 滝沢 武久（全家連常務理事） 提 言 「熊本県家族会館、通所授産施設をすすめる」 田中百合子（県連事務局） 大会テーマ 「家族会館をつくろう、みんなの力で！」 ○第二十三回県連家族大会 参加者五百三十名 日 時 平成五年三月二十四日 場 所 熊本市婦人会館カルチャーセンター 記念講演 「精神障害者の社会復帰を考える―家族の役割―」 講師 林 宗義（世界精神保健連盟総裁） 提 言 「地域福祉を進めよう 家族会の力で」 滝沢 武久（全家連常務理事） 大会テーマ 「地域福祉をすすめよう、家族会の力で！」</p> | <p>精神保健福祉の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者自立更生者として横式多美子（北海道精神障害者回復者連合会長） 神山憲一（栃木県精神障害者回復者連合会長）が総理大臣賞受賞 ・精神保健セミナーが東京および大阪で開催される ・精神障害者グループホームに助成制度、援護寮併設の精神障害者シヨートステイ施設整備予算化 ・全国障害者解放運動連絡会議 | <p>時の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本医師会が尊厳死認める 山村新治郎弁護士、娘に刺殺される 山形新幹線開業 世界遺産リストに法隆寺、姫路城、白神山地を推薦 学校隔週五日制スタート クリントン氏、米大統領に 松本清張、長谷川町子、大山康晴死去 バブル崩壊顕在化し始める PKO法案成立 天皇、皇后中国訪問 貴花田、史上最年少優勝 国家公務員の週休二日制スタート りんけんバンドがレコード大賞企画賞受賞 |

平成5年度
1993年

| | | | |
|---|---|---|--|
| <p>家族会館・通所授産施設 熊本きぼう福祉センターの開所 開所式四月一日、場所 家族会館 参加者七十名 精神障害者通所授産施設「熊本きぼう福祉センター」施工 記念祝賀会 日時 五月二十日、会場 鶴屋デパート 参加者 百四十名(福祉関係者・行政・家族会) 家族教室・研修会開催(県内十六ヶ所) 県連家族会指導者一泊研修会(十二月 於 三角町生豊旅 館)参加者四十五名 (第一日目) ・記念講演「最近の精神科医療」講師 荒木邦治(県精神 病院協会長) ・回復者の立場から「社会参加を考える」徳山大英(熊本 きぼう福祉センター通所生) ・家族会と共同作業所を試みて 藤島美美子(福岡しもの め共同作業所長) ・全家連活動報告 (第二日目) ・講演「これからの家族会活動の展望と課題」 講師 滝沢武久(全家連常務理事) ・講演「県政報告と家族会に期待するもの」 講師 阿曾田清(熊本県議会議員) 陳情活動 知事陳情(四月・九月) (県障害者福祉行動計画について要望) 県選出国会議員陳情(三月 於 東京) 全国運動入院患者給食費有料化への反対 九州ブロック精神保健家族相談員研修会(二月 於 沖縄 県)熊本県連より十七名参加 荒尾・長洲地域家族会結成大会・加盟 (五月二十四日 於 荒尾きぼうの家)参加者百三十名 月刊はなみずき創刊・会報きぼう十六号発行 決算額二千七十五万三千元</p> | <p>○全国大会 熊本県連より三十四名参加 日時 十月五日～六日 場所 名古屋市 (第一日目) 公開座談会 (第二日目) 分科会に分かれて研修 ①住居の問題 ②就労の問題 ③地域支援体制づくり 関係相互のつながりを求めて 大会式典での表彰者 坂梨美地緒(菊陽病院家族会) 熊野和子(熊本きぼう福祉センターボランティア)</p> | <p>・全国精神障害者団体連合会(全精 連)結成 ・アジア太平洋障害者十年始まる ・世界精神保健連盟・世界会議が千 葉県幕張において開催 ・精神保健法改正 (グループホーム制度化、精神障 害者社会復帰促進センター条項、 保護義務者から保護者へ) ・障害者基本法成立 ・精神障害者も対象として明文化 ・県障害者計画「障害者社会参加促 進プラン」策定</p> | <p>曙、史上初の外人横綱 天皇、初の沖縄訪問 皇太子、小和田雅子さんと 結婚 東京サミット開催 北海道南西沖地震 土井たか子、初の女性衆議 院議長 冷害による凶作のため緊急 輸入実施 ロシアエリツイン大統領来 日 ゼネコン汚職拡大 四十五年ぶりに非自民の細 川内閣成立 日本初のプロサッカーJ リーグ開幕 田中角栄、井伏鱒二、笠智 衆、野坂参三、オードリー ヘップバーン死去 無言坂／香坂かおり</p> |
|---|---|---|--|

| 平成6年度 1994年 | | 熊本県連の動き | 大会の内容 | 精神保健福祉の動き | 時の動き |
|---|--|---|--|---|------|
| <p>〔保健文化賞および厚生大臣賞受賞（九月）受賞理由〕 家族会活動を通して、精神障害者への理解を広め、精神障害者の福祉、社会復帰を推進し、地域の精神保健の向上に貢献した。 ※九州ブロック家族会精神保健活動研修会（一月 於菊南温泉観光ホテル） 熊本県連より百五十名参加 〈第一日目〉（全体会） ・講演「これからの精神医療」 講師 荒木邦治（県精神病院協会会長） 〈第二日目〉（午前の部・全体会、午後の部、分科会） ・当事者の会活動報告と家族会への提言 山口弘美（長崎県回復者クラブ会長） 家族会活動に期待すること 坂口信貴（北九州市保健福祉局医務官） 〈第三日目〉（全体会） ・「社会参加をどうすすめるか」 施設見学（あかねの里、家族会館） 全国大会参加（十一月 於 神戸市） 熊本県連から三十名参加 大会式典で宮本郁夫（内藤病院家族会長）が理事長表彰を受ける</p> <p>〔第一回ふれあいピック開催〕（在宅精神障害者スポレク大会） 共催 熊本県・県連合会 日時 十月二十二日 場所 熊本県民総合運動公園 参加者千二百名 スローガン「ささえあおう 今、心ひとつに」</p> <p>共同作業所開設 荒尾きぼうの家（三月十八日） 知事陳情（十一月） 社会復帰対策について五項目陳情 阪神大震災義援金の取り組みについて （本会より二十万六千円送金）</p> <p>八代地域家族会加盟 会報きぼう十七号発行 決算額 四千百五十一万三千円</p> | | <p>○第二十四回県連家族大会 参加者五百五十名 日時 六月二十七日 場所 メルバルク熊本 記念講演「障害者の生きる道」 講師 清田 一民（城南病院精神科部長） 体験発表「私の歩んだ道」 山口弘美（長崎県精神障害者団体連合会長） 提言「家族会の立場から」 大会テーマ「地域福祉を進めよう、家族会の力で」</p> | <p>・精神障害者社会復帰促進センターに全家連が指定される ・国際家族年 ・地域保健法の成立（国、県、市町村の役割分担）</p> | <p>南極捕鯨全面禁止 関西国際空港開港 名古屋空港で中華航空機墜落 二百六十四名死亡 松本サリン事件 日本人初の女性宇宙飛行士 向井千秋さん宇宙へ 大江健三郎、ノーベル文学賞受賞 北朝鮮金日成主席、吉行淳之介、東野英治郎、乙羽信子死去 イノセントワールド／ミスターチルドレン</p> | |

| 平成7年度 1995年 | | | |
|---|---|--|--|
| <p>精神保健福祉手帳の創設（十月） 陳情活動（社会復帰対策推進について） ・ 県陳情（九月） ・ 市陳情（一月）</p> <p>九州地区精神保健福祉手帳に関するヒアリング （八月 主催 厚生省、於 長崎市）事務局および当事者四名出席</p> <p>精神障害者社会参加事業 ・ やさしいまちづくり推進協議会 ・ 県障害者スポーツ文化協会設立準備会に参画 ・ 全国大会参加（全家連創立三十周年記念） （十月三十一日、十一月一日 於横浜市）</p> <p>大会式典に於いて個人の部厚生大臣賞 田中百合子、家族会活動功労者 江川保（宇城地域家族会）原川真紗雄（玉名きぼうの家所長）受賞</p> <p>第二回ふれあいピック 日時十月七日 場所 県民総合運動公園 参加者 千百六十名 スローガン「つたえよう ふれあう心のメッセージ」</p> <p>精神障害者の社会参加ハンドブック刊行の（県地域福祉基金助成） 共同作業所二ヶ所開設 開設費補助事業として（百五十万円×二ヶ所） 宇城きぼうの家（三月二十六日） 河浦きぼうの家（三月二十九日）</p> <p>会報きぼう十八号発行 決算額 四千七百万円</p> | | | |
| | <p>○創立二十五周年記念 精神障害者の社会参加と理解をすすめる県民大会 参加者七百名 日 時 七月五日 場 所 メルパルク熊本 午前の部「ミニコンサート」 午後の部「大会式典」 感謝状贈呈、荒木邦治 家族会関係 中村清一、飯塚英雄、塚本珪子 記念講演 「精神障害者を地域で支えるために」 講師 石神文子（大阪府枚方保健所保健福祉推進室長） 対談コーナー テーマ 「精神障害者の社会参加を推める」 大会テーマ 「精神障害者が安心できる社会をめざして」</p> | | |
| | <p>・ 精神保健および精神障害者福祉に関する法律成立・施行 ・ 精神保健福祉手帳の創設（厚生省が全国五カ所にヒアリング） ・ 障害者プラン（ノーマライゼーション七カ年戦略） ・ 英国ダイアナ妃が全家連を訪問 ・ 全家連三十周年記念大会に五千人参加 ・ 精神保健福祉士資格制度について朝日新聞論壇に全家連理事長見解掲載 ・ 社会復帰促進センターに精神保健福祉手帳制度検討会を設置 ・ 精神科救急医療システム整備事業実施について</p> | | |
| | | <p>青島幸男都知事 横山ノック大阪府知事誕生 青島知事都市博中止を決断</p> | <p>阪神・淡路大震災発生 地下鉄サリン、坂本弁護士拉致等、オウム真理教事件 麻原彰晃（松本智津夫）逮捕</p> |

| 平成8年度 1996年 | | 熊本県連の動き | 大会の内容 | 精神保健福祉の動き | 時の動き |
|--|--|--|---|--|------|
| <p>熊本県障害者スポーツ文化協会発足（四月） 精神保健に関する研修会などの開催 家族教室事業・県内地域家族会と共催（県内八ヶ所） ※九州ブロック家族会精神保健推進活動研修会（二月二十二日～二十四日 於宮崎市） 熊本県連から十五名参加 県連家族会指導者一泊研修会（十二月六日、七日） テーマ「家族会活性化と共同作業所の充実にむけて」 講義「これからの精神障害者対策」 講師 児玉 修（県精神保健福祉センター所長）</p> <p>全国大会（高知市）参加十一月七日、八日 大会式典で熊本県連から宮田好春氏（八代病院家族会長）表彰された</p> <p>第三回ふれあいピック 参加者千二百九十七名 スローガン「出会い、ふれあい、わかちあい」 九月二十八日 県民総合運動公園</p> <p>小規模作業所運営事業（厚生省） 玉名、天草、人吉球磨、八代、鹿本、荒尾、やまびこ （一カ所百二十万×七カ所） 共同作業所運営補助事業 二百八十万円補助作業所 玉名、八代、鹿本、荒尾、やまびこ 百二十万円補助作業所 人吉球磨、宇城、大矢野、河浦 共同作業所きぼうの家連絡会（年三回開催）</p> <p>精神障害者リハビリテーション会議 （全家連主催 於東京 十二月）熊本県連から二名参加 会報きぼう十九号発行 決算額五千二百九十一万四千円</p> | | <p>○第二十六回熊本県精神障害者家族大会 参加者五百七十八名 日 時 五月二十四日 場 所 メルパルク熊本 アトラクション（入院患者さんや作業所通所生による唄、おどり、器楽演奏） 三病院と鹿本きぼうの家、出演 記念講演 「地域で共に生きる」 講 師 三野善央（岡山大学医学部衛生学教室助教授）</p> <p>対談コーナー テーマ「私たちの精神保健福祉活動」 司会 藤本 敏雄（坂本病院長） 当事者の立場 徳山 大英（仲間会代表） 家族会の立場 江崎 吉子（天草地域家族会） 保健婦の立場 梅崎 陽子（松橋保健所） 市民の立場 岡村 節子（大光アパート管理人） 大会テーマ「家族のぬくもりは 安心を育てる」</p> <p>○全家連精神保健セミナーハウス 「ハートピアきつれ川」建設と県連家族会基金のための募金活動（目標額千万円） 期 間 平成八年度、九年度の二年間</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・社会復帰施設関係の予算増額 ・精神障害者地域生活事業発足 ・精神神経学会のシンポジウムで病名変更問題が取り上げられる ・優生保護法の改正 ・障害保健福祉部の創設（障害保健福祉課） ・日本PSW協会熊本県支部結成大 <p>会 社 日時 十一月三十日 場所 県総合福祉センター 参加者 八十名 支部長に松岡秀純氏 記念講演「精神保健福祉とPSWの専門性」 講師 柏木 明（日本精神医学ソーシャルワーカー協会会長、淑徳大学社会学部教授）</p> | <p>消費税五パーセント引き上げ決定 チャールズ皇太子とダイアナ妃離婚 公安調査庁オウム真理教の解散を請求 菅直人厚相、エイズ薬害問題で血友病患者に直接謝罪 将棋の羽生善治、初の七冠制覇 「男はつらいよ」のとらさん役で人気の渥美清さん死去 国際サッカー連盟二〇〇二年のワールドカップの日韓共催を決定 ペルー日本人大使公邸襲撃事件</p> | |

| 平成9年度 1997年 | | | |
|--|--|--|--|
| <p>県連家族会指導者一泊研修会（十二月五日） 会場 ひのくにふれあいセンター 参加者 五十一名 第一日目 講義「菊池保健所管内における社会復帰活動を考える」 講師 園田 照代（菊池保健所保健婦） ビデオ上映 題名「あちこたねえ」 講義「精神障害者の施策推進を図るために家族に期待する」 講師 佐藤 秀俊（身体障害者通所授産施設ライン工房副施設長） 第二日目 講義「地域で普通に暮らす」 講師 徳山 大英（仲間会りんどう代表） 講義「精神保健福祉の動向」 講師 仁木 徳子（県障害保健福祉課主幹） ※全国大会（別府）へ参加（熊本県連台会から百五十名参加） 日時 十一月十九日～十一月二十日 会場 別府市ビーコンプラザ 大会式典で長年に亘り家族会活動が認められ牛島県連会長が厚生大臣賞を受賞した 第一日目 記念講演「障害者が地域で普通に生活できるノーマライゼーションの実現をめざして」 講師 吉川 武彦（国立精神神経センター、精神保健研修所長） 公開座談会「ノーマライゼーション七カ年戦略の実現をめざして」 第二日目 基礎講座および分科会研修 ※熊本県社会復帰施設連絡協議会設立総会 日時 八月二十三日 於 県精神保健福祉センター</p> | | <p>第二十七回熊本県精神障害者家族大会 参加者六百三十四名 日時 五月三十日 場所 メルパルク熊本 アトラクション 大会式典 基調講演 「二十一世紀に向けての精神保健・医療・福祉の展開」 講師 三村孝一（城ヶ崎病院長） 公開座談会 「二十一世紀に向けての精神保健・医療・福祉の展開―私達の実践活動」 大会テーマ 「創ろう、障害者と共に生きる社会」</p> | |
| | | <p>・全国精神障害者地域生活支援協議会結成 ・今後の障害者保健福祉政策のあり方についての中間報告（障害三審議会合同企画分科会） ・安田病院解体 ・作業所補助金危機 ・厚生省所管の公益法人への補助金半額削減計画が発表される ・全家連・他障害団体と共に陳情の結果削減は撤回される ・精神科救急学会設立 ・精神保健福祉士法の成立</p> | |
| | | <p>香港返還 元英皇太子妃ダイアナ死去 マザーテレサ死去 タイガーウッズ史上最年少でマスターズ（ゴルフ）優勝 CAN YOU CELEBRATE / 安室奈美恵</p> | |

| 熊 本 県 連 の 動 き | 大 会 の 内 容 | 精 神 保 健 福 祉 の 動 き | 時 の 動 き |
|---|-----------|-------------------|---------|
| <p style="text-align: center;">平成9年度 1997年</p> <p>第四回ふれあいピック（地域精神障害者スポレク大会） 参加者 千三百名 日時 十月十八日 会場 県民総合運動公園 スローガン「はばたこう！心はふれあう風になる」 一カ所百十万円×十カ所 ②共同作業所運営補助事業（熊本県） ・二百八十万円×八カ所・百十万円×二カ所 ・共同作業所新設（百五十万円） 三月二十六日開所式 菊池きぼうの家 ・熊本県共同作業所きぼうの家連絡会の活動（年四回開催） ※熊本県共同作業所等スポーツ交流会 日時 五月十六日 会場 荒尾運動公園ソフトボール球場 参加者数 百三十六名（六団体） ※熊本県共同作業所等文化交流会 日時 二月二十日 会場 熊本県家族会館 参加者数 百七名（九団体） ※全国地域生活支援協議会結成大会に参加 日時 七月二十日～二十一日 会場 東京吉祥寺東急イン ※全国リハビリテーション会議へ参加 日時 十二月一日～二日 会場 東京ホテルメトロポリタン 会報きぼう二十号発行 決算額 五千八百九十五万円</p> | | | |

| 平成10年度 1998年 | |
|--|---|
| <p>精神障害者地域生活支援事業「熊本きぼう生活支援センター」家族会館に併設</p> <p>精神保健福祉手帳サービス拡大に関する請願署名活動（全国運動）</p> <p>※県連家族会指導者一泊研修会 日時 十二月四日、五日 場所 玉名市 参加者 七十名 ・第一日目</p> <p>講義Ⅰテーマ「家族会、共同作業所にのぞむこと」 講師 今野えり子（城ヶ崎病院ソーシャルワーカー） ビデオ上映「そよ風はどこにでも」地域精神保健の実際 講義Ⅱテーマ「これからの精神保健医療福祉を考える」行政の立場から 講師 岩崎 康孝（福岡県保健福祉部健康対策部長） ・第二日目</p> <p>講義Ⅰテーマ「精神障害者の自立とは―当事者の立場から―」 講師 徳山 大英（仲間会りんどう代表） 講義Ⅱテーマ「家族に求められるもの」精神障害者の成年後見制度について 講師 滝沢 武久</p> <p>※九州ブロック家族会精神保健推進活動研究会開催 日時 一月二十一日～二十三日 参加者 二十九名 会場 鹿児島市</p> <p>家族教室実施（十二カ所） ※全国都道府県連合会長緊急会議 日時 一月二十七日、二十八日 会場 東京ダイヤモンドホテル 参加者 牛島 一人</p> <p>①精神保健法の改正に向けて ②国会議員への直接要望書提出（陳情）</p> | <p>○第二十八回熊本県精神障害者家族大会 参加者六百六十五名</p> <p>日時 六月五日 場所 メルパルク熊本 アトラクション ～入院患者さんのうた、踊り、器楽演奏など、二つの病院と荒尾きぼうの家演出 基調講演 「今からの精神科医療、保健、福祉」 講師 荒木 邦治（県精神保健協会専務理事） シンポジウム 「今からの精神科医療、保健、福祉」 ～熊本県の精神保健福祉審議会の答申をふまえて～ 大会テーマ 「知らせよう精神障害者の実情、強めよう地域とのつながり」</p> <p>○第三十回全国大会参加 参加総数 六千名（熊本県連より三十二名参加） 日時 十月十六日～十七日 会場 東京都京王プラザホテル 日本武道館 第一日目（分科会、シンポジウム、国際セミナー） 第二日目（大会式典、シンポジウム、詩の朗読、体験談、理事長表彰、街頭行進） ※大会式典で、鹿本きぼうの家古田幹栄所長が全連理事長表彰を受賞</p> |
| <p>・精神保健福祉士法施行「精神保健福祉士現任者講習」が日本国内各地で開催 ・「成年後見制度要綱試案法」制度審議会民法部会に提出 ・労働省「障害者雇用対策基本方針」 ・精神科救急システム稼働 ・くまもと障害者プラン策定</p> | <p>長野オリンピック開催 サッカーワールドカップに日本出場 三十八年ぶりに横浜ベイスターズが日本一 和歌山カレー毒物混入事件 この事件の影響か日本各地で類似事件発生 長い間／キロロ</p> |

| 熊本県連の動き | 大会の内容 | 精神保健福祉の動き | 時の動き |
|---|-------|-----------|------|
| <p style="text-align: center;">平成10年度 1998年</p> <p>※陳情活動 ①県議会（九月十日） ③知事（九月二十一日）</p> <p>第五回ふれあいピック開催 参加者千三百六十五名 大会スローガン「楽しもう 心は自由に ふれあいピック」 日時 九月二十六日 場所 パークドーム熊本</p> <p>※共同作業所さきぼうの家連絡会開催（六回実施） ※共同作業所スポーツ・文化交流会事業開催 九州沖縄地区共同作業所ソフトボール大会 日時 十月三十日 会場 福岡市 県内作業所から選抜十四名が参加</p> <p>桜が丘病院家族会加盟 四月一日 上益城地域家族会結成 三月十九日 水俣・芦北地域家族会結成 三月二十四日</p> <p>会報さきぼう二十一号発行 決算額 二千四十五万九千円</p> <p>「熊本さきぼう生活支援センター」家族会館に併設 ※くまもと障害者プランの策定 ※県連家族会指導者一泊研修会 菊池さきぼうの家開所（平成十年三月二十六日） ※熊本市家族教室 日時 平成十年六月二十七日 場所 産業文化会館 全家連報告（田中副会長） 講演「当事者は語る」（徳山大英 熊本さきぼう福祉センター利用者） 第五回ふれあいピック スローガン「楽しもう 心は自由にふれあいピック」</p> | | | |

平成11年度
1999年

※県連家族会指導者一泊研修会
参加者八十四名
日時 十二月三日、四日
会場 阿蘇ひのくに会館

第一日目(全体会)

研修Ⅰ 阿蘇地域の精神保健活動―共同作業所づくり―
講師 江藤 多佳代(阿蘇保健所保健婦)
研修Ⅱ 全家連活動と今後の課題―精神障害者と成年後見制度―
講師 池原 毅和(全家連常務理事)

第二日目

研修Ⅰ 当事者からの提言
研修Ⅱ 座談会「今後の精神障害者福祉と家族会の役割」
研修Ⅲ 施設見学(阿蘇やまなみ病院)

※全国大会参加
日時 十月十四日、十五日(於山形市)
熊本県連より三十九名参加

※家族教室(十五カ所)開催
地域家族会と共催(十カ所)
共同作業所と共催(五カ所)

第六回ふれあいピック
日時 十二月二十二日(於県立体育館)
参加者 千名

※熊本県共同作業所きぼうの家連絡会開催(年六回実施)
※九州地区ソフトボール長崎大会参加
日時 十一月十二日
場所 島原市
県内作業所より選抜十四名が参加

共同作業所スポーツ文化交流事業開催
・ミニバレー大会(十一月 於玉名市) 十一団体
百八十四名参加
・文化交流会(三月 於鏡町) 七団体 百九名参加
会報きぼう二十二号発行
決算額千六百八十三万七千円

阿蘇共同作業所開所(平成十二年三月二十八日)

○第二十九回県連家族大会

日時 六月四日
場所 メルパルク熊本大ホール 参加者
六百十五名
・記念講演 「苦しみを越えて生きる」―いまひと
ときのしあわせを―
講師 一門 恵子(九州ルーテル学院大学教授)
・家族会からの提言「生活支援センターの実践から
見えてくるもの」
小嶋 清志(県連事務局)
大会テーマ 「ひろげよう、地域とのふれあい、取
り組もう、福祉サービスの拡大」

・第一回精神保健福祉士国家資格試
験実施
・精神保健福祉法一部改正国会で可
決成立
・熊本市が一カ所への保健所、四カ
所の保健福祉センター体制となる
・「障害者の社会的活動への参加の
促進のための関係条例」施行、障
害者手帳所持者への県立施設の利
用免除される

台風十八号によりパーク
ドーム損壊

「だんご三兄弟」が大ヒッ
ト

第五十四回国民体育大会お
よび第三十五回ハートフル
国体が熊本で開催される

福島県知事逝去

東海村JOC臨海事故

| 平成13年度 2001年 | 平成12年度 2000年 | |
|--|--|------------------|
| <p>川上精一会長就任</p> <p>上益城共同作業所開所（平成十四年三月二十六日）</p> <p>※熊本県連家族会指導者一泊研修会 参加者九十三名 日時 平成十三年十二月七日・八日 場所 湯の児温泉三笠屋旅館</p> <p>研修①「精神障害者の作業の実践から」緒方美志子（花づくりの管理事務所生活支援員）</p> <p>研修②「NPO法人設立の体験を通して」</p> <p>研修③「今、家族に求められるもの」中井和代（全家連相談室）</p> <p>研修④「全家連活動報告」中井和代（全家連相談室）</p> <p>研修⑤グループミーティング</p> <p>研修⑥まどか園（水俣市月浦）施設見学</p> <p>※障害者支援教室</p> <p>玉名・宇城・天草・上益城・八代・阿蘇の六か所で実施</p> <p>※第八回ふれあいピック 参加者千三百七十四名</p> <p>スローガン「むずびあう 心とこころ 人とひと」</p> | <p>平成十二年</p> <p>※第三十回県連家族大会開催</p> | <p>熊本県連の動き</p> |
| <p>○第三十一回熊本県精神障害者家族大会</p> <p>日時 平成十三年六月八日</p> <p>場所 メルパルク熊本 大ホール</p> <p>記念講演「これからの地域福祉」―精神障害者が安心して暮らすために―</p> <p>講師 寺谷 隆子氏（日本社会事業大学教授）</p> <p>体験発表</p> <p>・家族から 藤島美美子氏（福岡市しのめ福祉会代表）</p> <p>・当事者から 徳山 大英氏（仲間会「りんどう」代表）</p> <p>大会テーマ「共に築こう、市町村の時代」</p> | <p>○第三十回熊本県精神障害者家族大会</p> <p>日時 平成十二年六月九日</p> <p>場所 メルパルク熊本 大ホール</p> <p>記念講演「精神科『医療・保健・福祉』」</p> <p>講師 荒木 邦治氏（くまもと心療病院理事長）</p> <p>シンポジウム「家族会三十年の歩みとこれからの課題」</p> <p>座長 中田 榮治氏（御船保健所長）</p> <p>演者 行政から 児玉 修氏（阿蘇保健所長） ソーシャルワーカーから 今野えりこ氏（城ヶ崎病院精神保健福祉士）</p> <p>当事者から 徳山 大英氏（精神障害者セルフヘルプグループ「りんどう」代表）</p> <p>家族会から 林田 協子（県連家族会専務理事）</p> <p>大会テーマ「市町村の時代！地域で支え、共に生きる」</p> | <p>大会の内容</p> |
| <p>・DV防止法施行</p> | <p>・社会福祉法成立</p> <p>・介護保険法施行</p> | <p>精神保健福祉の動き</p> |
| <p>ジョージ・W・ブッシュが米大統領に就任</p> <p>小泉純一郎内閣発足</p> <p>アメリカ同時多発テロ事件（米国対テロ戦争）</p> <p>国内初の狂牛病</p> <p>敬宮愛子内親王誕生</p> <p>野依良治がノーベル化学賞受賞</p> <p>附属池田小事件</p> | <p>菅団日比谷線脱線衝突事故</p> <p>森喜朗内閣発足</p> <p>三宅島の雄山噴火</p> <p>白川秀樹がノーベル化学賞受賞</p> | <p>時の動き</p> |

| 平成14年度 2002年 | | |
|---|--|--|
| <p>三十年にわたって受けていた熊本県精神保健福祉センター内の清掃委託終了</p> <p>※熊本県連家族会指導者研修会 参加者九十六名</p> <p>日時 平成十四年八月九日</p> <p>場所 熊本県民交流館パレア</p> <p>講演「我が国の精神障害者施策の動向」</p> <p>講師 楠谷 肇（全家連事務局長）</p> <p>講演「地域における精神保健福祉を推進する―社会復帰施設の現場での試み―」</p> <p>講師 武田 廣一（高知県通所授産施設さんかく広場施設長）</p> <p>※家族支援教室 参加者 延べ三百三名</p> <p>水俣若北・人吉球磨・荒尾長洲・熊本市の四か所で実施</p> <p>※第九回ふれあいピック 参加者千三百八十一名</p> <p>スローガン「手をつなごう みんなの心 一つの輪」</p> | <p>○第三十二回熊本県精神障害者家族大会 参加者七百四十三名</p> <p>日時 平成十四年六月七日</p> <p>会場 メルパルク熊本 大ホール</p> <p>記念講演「精神科医療の変革を求めて」</p> <p>講師 北村 俊則氏（熊本大学医学部神経精神医学講座 教授）</p> <p>提言</p> <p>コメンテーター 北村 俊則氏（熊本大学医学部神経精神医学講座 教授）</p> <p>○市町村から 藤川 直子氏（大矢野町保健師長）</p> <p>○当事者から 徳山 大英氏（仲間会「りんどう」代表）</p> <p>○家族から 緒方 省吾氏（上益城地域家族会長）</p> <p>大会テーマ「市町村でとりくもう！わたしたちの未来」</p> <p>○九州ブロック家族会精神保健福祉推進活動研修会熊本大会 参加者九百四十名</p> <p>日時 平成十五年二月六日・七日</p> <p>場所 ニュースカイホテル</p> <p>オープニングセレモニー</p> <p>共同作業所鹿本さばりの家のみなさんによるハンドベル演奏</p> <p>記念講演「市町村の精神保健福祉活動に期待する」</p> <p>講師 池末 美穂子（日本福祉大学教授）</p> <p>講演「精神障害者の人権と地域生活におけるセイフティネットを考える」</p> <p>池原 毅和（全家連常務理事 弁護士）</p> <p>分科会</p> <p>①「家族会と市町村とスムーズな連携を図るために」</p> <p>司会 高橋 年男（沖縄県精神障害者福祉会連合会事務局長）</p> <p>報告 林田 清春（不知火町保健福祉課長）</p> <p>萩原ひとみ（熊本県有明保健所保健指導係長）</p> | <p>・新障害者プラン策定</p> |
| | | <p>日朝平壤宣言</p> <p>金正日総書記が日本人拉致問題を公式に認める（拉致被害者五人が帰国）</p> <p>小柴昌俊にノーベル物理学賞・田中耕一にノーベル化学賞</p> |

| 平成14年度 2002年 | 熊本県連の動き | |
|---|--------------|------------------|
| | | |
| <p>大会テーマ「隠さんでよか！み〜んな同じ仲間ばい」</p> <p>大会タービアクるめ）</p> <p>藤林 詠子（久留米市障害者生活支援センター）</p> <p>助言 藤江 京子（熊本市婦人ボランティアの会長）</p> <p>矢野 晴子（福岡市共同作業所福祉工房フルハート所長）</p> <p>中野美香子（熊本市障害保健福祉課保健師）</p> <p>百田なみ子（ボランティアほほえみの会代表）</p> <p>報告 宮川いつ子（熊本市社会福祉協議会ボランティアセンター所長）</p> <p>④「ボランティア〜地域でささえる精神保健ボランティア〜」</p> <p>藤本 聖一（あかねの里里長）</p> <p>見附 健（福岡県精神障害者福祉会連合会事務局長）</p> <p>村上 良慈（吉田病院診療部長）</p> <p>川口 芳之（通所授産施設やまなみ施設長）</p> <p>湯浅 聡子（阿蘇きぼうの家指導員）</p> <p>木村伊津子（みどり福祉会施設長）</p> <p>報告 山梨 宗治（福岡県精神障害者連絡会事務局長）</p> <p>江崎 公一（うき同志会代表）</p> <p>今野えり子（城ヶ崎病院精神保健福祉士）</p> <p>徳山 大英（セルフヘルプグループ仲間会りんどう代表）</p> <p>③「地域での社会資源の果たす役割」</p> <p>司会 貴島 幸信（長崎県精神障害者団体連合会会長）</p> <p>報告 一門 恵子（九州ルーテル学院大学教授）</p> <p>司会 松岡 秀純（熊本県精神保健福祉センター精神保健福祉士）</p> <p>②「隠さない生き方！」</p> <p>助言 藤島美美子（福岡市しのめ福祉会会長）</p> <p>井形るり子（熊本市障害保健福祉課医療主幹精神科医）</p> | <p>大会の内容</p> | |
| | | <p>精神保健福祉の動き</p> |
| | | <p>時の動き</p> |

| 平成16年度 2004年 | 平成15年度 2003年 |
|---|--|
| <p>新町共同作業所開所（平成十六年八月二十九日） 障害者地域生活支援システム確立全国緊急集會に参加（田中副会長・森田参加）</p> <p>※熊本県連一泊研修会 参加者百三名 日時 平成十六年十二月三日 場所 プランカホテル（荒尾市）</p> <p>講演①「最近の精神科医療の動き」 講師 津嘉山 毅（有働病院医師）</p> <p>講演②「精神保健福祉の動向」 講師 岡本 哲夫（熊本県精神保健福祉課課長）</p> <p>講演③「生活技能訓練（SST）の効果と実践から学ぶ」 講師 三善 富士雄（国立病院機構菊池病院 作業療法士）</p> <p>※家族支援教室①鹿本 参加者六十五名 日時 平成十六年九月二十四日 場所 山鹿市健康福祉センター</p> <p>講演「家族自身が幸せになるために」 講師 中島 央（熊本県精神保健福祉センター所長）</p> <p>※家族支援教室②玉名 日時 平成十六年十一月二十四日 場所 玉名病院研修室</p> <p>講演「精神保健福祉士を利用しよう」 講師 山下 泰史（玉名病院精神保健福祉士）</p> <p>※第十一回ふれあいピック 参加者千五百四十三名 スローガン「深め合おう あなたと私の心の絆」</p> | <p>熊本県精神障害者団体連合会結成大會 さくらカード無料化継続陳情</p> <p>○第三十三回熊本県精神障害者家族大會 参加者七百八十七名 日時 平成十五年六月五日 場所 熊本県立劇場 演劇ホール</p> <p>記念講演「市町村の時代と地域生活支援のこれから」 講師 大友 勝氏（全国精神障害者地域生活支援協議会 代表）</p> <p>シンポジウム「これからの地域福祉をすすめるために」 ・座長 中島 央氏（熊本県精神保健福祉センター所長） ・精神保健福祉士 今野えり子氏（城ヶ崎病院 精神保健福祉士） ・当事者 徳山 大英氏（仲間会「りんどう」代表） ・家族 林田 協子（県連合会 専務理事）</p> <p>大會テーマ「市町村と共に歩もう、家族会」</p> |
| <p>○第三十四回熊本県精神障害者家族大會 日時 平成十六年六月四日 場所 熊本県立劇場 演劇ホール</p> <p>記念講演「精神障害者福祉と家族会活動に期待する」 講師 八代 英太氏（衆議院議員 精神障害者社会復帰促進議員懇話会会長）</p> <p>提言 ①「当事者活動に求められる社会的役割」 徳山 大英氏（熊本県精神障害者団体連合会会長） ②「家族会育成と社会参加活動」 田中 百合子（社団法人熊本県精神障害者福祉会連合会副会長）</p> <p>大會テーマ「とどげよう家族会の声！共にささえあう社会を」</p> | <p>・医療観察法成立 ・精神障害者退院促進支援モデル事業</p> |
| <p>・こころのバリアフリー宣言 ・精神保健医療福祉の改革ビジョン ・今後の障害保健福祉施策について（改革のグランドデザイン案） ・性同一性障害特例法施行 ・社団法人日本精神保健福祉士協会 ・熊本県支部、熊本県精神保健福祉士協会設立</p> | <p>イラク戦争 日本郵政公社発足 六本木ヒルズがグランドオープン SARSが大流行 横綱貴乃花が引退表明</p> |
| <p>振り込め詐欺多発 新潟県中越地震 新紙幣発行（二十年ぶり） アテネ五輪で北島康介らが活躍 スマトラ島沖地震が発生</p> | <p>七十九年ぶりに鳥インフルエンザ発生 自衛隊イラク派遣 九州新幹線開業 イラク日本人質事件 年金未納問題 裁判員法</p> |

| 熊本県連の動き | 大会の内容 | 精神保健福祉の動き | 時の動き |
|--|---|-------------------------------------|---|
| <p>平成17年度 2005年</p> <p>※熊本県連一泊研修会 参加者八十五名 日時 平成十七年十二月二日・三日 場所 亀屋ホテル（上天草市） 講義①「精神科医療と開放化―社会復帰活動―」 講師 大塚 直尚（県立こころの医療センター医師） 講義②「障害者自立支援法の下での共同作業所・社会復帰施設の事業化を考える」 講師 森田 哲史（熊本きぼう福祉センター施設長） 講義③「障害者自立支援法について」 講師 細山田 寿男（熊本県障害者支援総室 主幹） 講義④「地域に向けた精神科医療と福祉に期待する」 講師 江上 義盛（全国精神障害者家族会連合会 専務理事）</p> <p>※家族支援教室①水俣芦北 参加者七十二名 日時 平成十七年七月五日 場所 エコパーク花の里ナーセリー 講演「障害者自立支援法について」森田哲史（熊本きぼう福祉センター施設長） 講演「社会参加を図る―社会復帰施設の立場から―」萩嶺 浄信（まどか工房施設長）</p> <p>※家族支援教室② 熊本市 参加者八十九名 日時 平成十七年十一月十四日 場所 県民パレア 講演「慢性的な精神障害のメンタルヘルス」中島 央（熊本県精神保健福祉センター所長） 講演「障害者自立支援法について」森田哲史（熊本きぼう福祉センター施設長）</p> <p>※第十二回ふれあいピック 参加者千五百九名 スローガン「ふれ合おう！みんなの笑顔と心の輪」</p> | <p>○第三十五回熊本県精神障害者家族大会 日時 平成十七年六月一日 場所 熊本県立劇場 演劇ホール 記念講演「新時代の社会参加『働く生活』の実現に向けて」 講師 館 暁夫氏（西南学院大学社会福祉学科 教授） 提言 ①「就労体験を通して思う」 本田 博昭氏（福祉工場あかねクリーン従業員） ②「精神障害者の自立を促進し、社会理解をめざそう」 林田 協子氏（社団法人熊本県精神障害者福祉会連合会） 大会テーマ「働ける社会の基盤づくりを!!」</p> | <p>・発達障害者支援法施行 ・犯罪被害者等基本法施行</p> | <p>JR福知山線脱線事故 愛知万博開催 ディーピンバクト、無敗 三冠馬に</p> |

| 平成18年度 2006年 | | | |
|--|---|--|--|
| <p>「全家連」解散 ※熊本県連一泊研修会 参加者百七名 日時 平成十八年九月八日・九日 場所 龍泉閣(植木町) 講義①「通院への支援―当院での取り組み―」横田周三(向陽台病院院長) 講義②「家族会の未来」細山田寿男(熊本県障害者支援室主幹) 講義③「これからの共同作業所・社会復帰施設のある方を考える」森田哲史(熊本さきぼう生活支援センター施設長) 講義④「家族会が元気になるための市町村のささえ」林良樹(植木町健康福祉課長) 講義⑤「あなたが変われば、きっと当事者も変わる」三善富士雄(国立病院機構菊池病院作業療法士) ※家族支援教室①荒尾長洲 参加者八十名 日時 平成十八年七月四日 場所 荒尾市ふれあい福祉センター 講演①「息子と共に生きる」田代和子(家族会) 講演②「家族会が自己の悩みを癒してくれる」林田協子(県連家族会) ※家族支援教室②宇城 参加者八十一名 日時 平成十八年七月二十八日 場所 宇土市民会館 講演①「これからの精神科医療の方向性」中島央(熊本県精神保健福祉センター所長) 講演②「家族体験発表」杉野彰子 講演③「当事者体験発表」楠達雅(仲間会りんどう) シンソン&ジョンソンより補助金をもらい、初めて「家族相談研修会」開催 ※家族相談研修会 日時 平成十八年十二月一日 場所 熊本全日空ホテルニュースカイ 講義①「家族相談の意義」中井和代(元全家連相談室長) 講義②「家族相談のすすめ方」中井和代(元全家連相談室長) 実践報告「長崎県連家族会家族相談員紹介事業」濱崎英夫(ありあけ会会長) ※第十三回ふれあいピック 参加者千四百六十名 スローガン「楽しもう 心のびのび ふれあいピック」</p> | <p>○第三十六回熊本県精神障害者家族大会 日時 平成十八年五月二十六日 場所 熊本県立劇場 演劇ホール 基調講演 「これからの精神障害者施策を考える」 講師 藤木 則夫氏(厚生労働省社会・援護局障がい保健福祉部 障がい福祉課長) シンポジウム「精神障害者が自立できる地域社会をめざして」 コーディネーター・助言者 倉知 延章氏 (九州ルーテル学院大学 教授) 雇用事業者 宗像 尚美氏(吉野乃丘事業所長) サービス事業所 西村 和敏氏(熊本県あかね生活支援センター施設長) 当事者会 楠 達雅氏(セルフヘルプグループ仲間会「りんどう」) 家族会 林田 協子氏(熊本県連 専務理事) 大会テーマ 「遅れている精神障害者施策の推進を図ろう」</p> | <p>・精神障害者退院促進事業 ・全国精神保健福祉会連合会(みんなねっと)設立 ・障害者自立支援法施行 ・自殺対策基本法施行 ・高齢者虐待防止法施行</p> | <p>ライブドア事件 安倍晋三内閣発足 北朝鮮の核実験 日本郵政株式会社発足 悠仁親王誕生 トリノオリンピックで荒川静香が金メダル WBC王ジャパン初代王に</p> |

| 熊 本 県 連 の 動 き | 大 会 の 内 容 | 精 神 保 健 福 祉 の 動 き | 時 の 動 き |
|---|-----------|-------------------|---|
| <p style="text-align: center;">平成19年度 2007年</p> <p style="text-align: right;">「みんなねっと」発足</p> <p>熊本精神障害者医療福祉促進連絡会結成 ※県連家族会一泊研修会 参加者八十二名 日時 平成十九年十二月十七日 場所 人吉温泉「鮎の里」</p> <p>講義①「精神科医療の実践を通して、今後の保健福祉・家族会に期待する」吉田正毅（吉田病院長） 講義②「障がい者にとってのやさしいまちづくりー人吉市の取り組みー」上田泉（人吉市企画部次長） 講義③「これからの家族会活動を考えるー会長会議を踏まえてー」林田協子（県連家族会専務理事） 講義④「癒しへの誘い」清原加代子（心理カウンセラー） 分科会①魅力ある家族会運営②要望により市町村への理解を深めよう③地域活動支援センターの取り組みと今後の課題</p> <p>※家族支援教室</p> <p>①玉名地域（平成十九年八月二十九日）於玉名市福祉センター 参加者五十八名 ②天草地域（平成十九年八月二十九日）於JA本渡五和本店</p> <p>※家族相談研修会</p> <p>①八代地域（平成十九年九月十三日）於八代市保健センター ②阿蘇地域（平成十九年九月二十七日）於阿蘇市農村環境改善センター ③熊本市（平成二十年三月七日）於熊本市市民会館 ※第十四回ふれあいピック 参加者千四百八十一名 スローガン「分かち合おう 輝く汗と輝く笑顔」</p> | | | <p>能登半島地震 新潟県中越沖地震 福田康夫内閣発足 郵政民営化 年金記録問題 防衛省発足 石見銀山遺跡、世界遺産に登録 東国原英夫宮崎県知事に当選</p> |

平成20年度
2008年

公共交通運賃軽減をめざし、活動を展開

※熊本県連家族会一泊研修会 参加者九十三名

日時 平成二十年十二月五日・六日

場所 菊池観光ホテル

講義「今、精神障害者の社会復帰を考える」

講師 有働信昭（有働病院長）

話題提供「これからの家族会活動を考える」

講師 林田協子（県連家族会専務理事）

講演「当事者の社会参加活動をすすめよう！」

講師 滝沢 武久（元全家連専務理事）

分科会①会員拡大に向けた家族会運営②市町村への要望強化③地域活動支援センターの今後の取り組み

※家族支援教室

① 鹿本地域（平成二十年七月二十四日）於鹿本町生涯学習健康センター「ひだまり」参加者八十名

② 宇城地域（平成二十年九月二十五日）於宇城市役所 参加者八十名

※家族相談研修会

① 水俣地域（平成二十年十月十七日）於水俣市もやい館

② 熊本市（平成二十年十一月七日）於ウエルパルクまもと

※第十五回ふれあいピック 参加者千二百七十六名

スローガン「つなげよう みんなの心と 笑顔の輪」

※第一回全国精神保健福祉家族大会東京大会への参加

熊本市より十九名参加

日時 平成二十年十月二十九日～三十日

場所 東京厚生年金会館

記念講演「統合失調症との付き合い方」

講師 蟻塚 亮二（ノーブルクリニック やんばる所長）

○第三十八回熊本県精神障害者家族大会

日時 平成二十年六月二十日

場所 熊本県立劇場 演劇ホール

シンポジウム「安心して暮らせる生活環境を求めて」

座長 古賀 靖人氏（明生病院院長）

① 当事者 楠 達雅氏（熊本きぼう福祉センター利用者）

② 企業 吉田 周生氏（有限会社ヨシタ精工代表取締役）

③ 精神保健福祉士 城戸 美智代氏（熊本県有明障害者就業・生活支援センター「きずな」主任就業支援ワーカー）

④ 家族会 林田 協子氏（県連事務局専務理事）

基調講演「精神科医療の実践と課題」

講師 池田 学氏（熊本大学大学院医学部薬学

研究部脳機能病態学分野教授）

大会テーマ「精神障がいを受容できる社会の構築を！」

・精神障害者地域移行支援特別対策事業

・スクールソーシャルワーカー活用事業（文科省）

リーマンショック

麻生太郎内閣発足

北海道洞爺湖サミット開催

| 熊本県連の動き | 大会の内容 | 精神保健福祉の動き | 時の動き |
|--|---|----------------------|---|
| <p style="text-align: center;">平成21年度 2009年</p> <p>熊本県内公共交通運賃半額サービズ開始（四月一日より） 津田史朗会長就任</p> <p>※熊本県連家族会一泊研修会 参加者九十六名 日時 平成二十一年十二月四日～五日 場所 八代グランドホテル</p> <p>講演①「今後求められる精神障がい者および家族への法的支援について」 講師 滝沢 武久氏（元 全家連専務理事）</p> <p>講演②「地域における精神障がい者の自立支援をめざして」 講師 渡邊 雅文（熊本大学医学部付属病院神経精神科医師）</p> <p>フリーディスカッション「今後の精神科医療と福祉の展望」 講師 藤本 敏雄（平成病院理事長）</p> <p>※家族支援教室</p> <p>①上益城地域（平成二十一年九月十五日）於山都町総合福祉センター「千寿苑」 七十三名参加 ②天草地域（平成二十一年九月三十日）於天草市民センター 五十四名参加</p> <p>※家族相談研修 単年度事業として県より補助がでる</p> <p>①鹿本地域（平成二十一年七月二十七日）於山鹿市健康福祉センター ②菊池地域（平成二十一年十一月十三日）於菊池市福祉会館 ③熊本市（平成二十二年一月二十八日）於市民センターあいぽーと</p> <p>※第十六回ふれあいピック スローガン「つなごう 心と心の ふれあいピック」 ※第二回全国精神保健福祉家族大会長崎大会への参加 熊本県より九十三名参加 日時 平成二十一年十月二十九日～三十日 場所 長崎ブリックホール</p> <p>記念講演「障害者権利条約の批准に向けた課題」 講師 東 俊裕（弁護士）</p> | <p>○第三十九回熊本県精神障がい者家族大会 日時 平成二十一年六月十日 場所 熊本県立劇場 演劇ホール</p> <p>記念講演「統合失調症からの回復を目指して」 講師 蟻塚 亮二氏（ノーブルクリニク・ヤンばる 精神科医）</p> <p>基調報告 「自分自身で、ともに。―『ひとり地域生活するために必要なこと』―浦河べてるの家とひだクリニクの実践から」</p> <p>家族会報告「家族会の現状とこれからの活動」 報告者 林田 協子氏（県連家族会専務理事）</p> <p>大会テーマ「とだけよう家族会の声！ ささえあう社会をめざして！」</p> | <p>・ハンセン病問題基本法施行</p> | <p>鳩山由紀夫内閣発足（民主党政権成立）</p> <p>バラク・オバマが米大統領就任</p> <p>マイケルジャクソンが死去</p> |

| 平成22年度 2010年 | | |
|---|--|--|
| <p>JR九州へ精神障害者に対し運賃割引に関する要望書提出 (以降毎年要望を継続) ※熊本県連家族会一泊研修会 参加者八十三名 日時 平成二十二年十二月三日・四日 場所 阿蘇いこいの村 講演「精神科医療について」 講師 中房 憲司(阿蘇やまなみ病院 精神科医) 講演「地域生活支援における課題」相談支援活動を通して」 講師 岩永 貴美子(相談支援事業所 時計台 相談支 援専門員) ※家族支援教室 ①八代地域(平成二十二年六月二十三日) 於やつしろハ モニホール 七十五名参加 ②水俣地域(平成二十二年九月十五日) 於もやい館 四十一名参加 ※家族相談研修会 日時 平成二十三年二月十八日 場所 全日空ホテルニュースカイ熊本 講義「家族相談の意義」 講師 邑上 春美(熊本社会福祉専門学校講師) ※第十七回ふれあいピック 参加者千二百五十二名 スローガン「広げよう みんなの笑顔と 心の絆」</p> | | |
| <p>○第四十回熊本県精神障がい者家族大会 日時 平成二十二年六月四日 場所 熊本県立劇場 演劇ホール 記念講演「地域社会で生活していくために」再発の リスクを減らす」 講師 佐藤 大輔氏(医療法人蒼風会児玉病院 院長) 体験発表(当事者より) テーマ「精神障がい者のイメージを変えたい」 報告者 楠 達雅氏(熊本きぼう福祉センター 精神保健福祉士) 提言「家族会に求められる社会的役割」 報告者 宮田 喜代志氏(熊本市中心の障害者家族会 会長) 大会「安心して暮らせる医療・福祉サービスの早急 な対策を！」</p> <p>○九州ブロック家族会精神保健福祉推進活動研修会 熊本大会 日時 平成二十三年二月十七日・十八日 場所 熊本全日空ホテルニュースカイ 講演「障害者権利条約と保護者制度」 講師 池原 毅和(東京アドヴォカシー法律事 務所 弁護士) 記念講演「精神科医療と地域福祉の連携をめざし て」 講師 榑島 啓吉(熊本県精神科病院協会 副 会長) 講演「家族相談の意義」 講師 邑上 春美(熊本社会福祉専門学校 講師) 分科会 ①「家族会と地域福祉」 座長 川崎 洋子(みんなねっと 理事長) 報告者 山川 みどり(八代病院家族会会長) 池田 實(佐賀県精神障害者家族連合会理事) 塚本 良明(福岡県精神障害者福祉会連合 会理事)</p> | | <p>・精神障害者アウトリーチ推進事業</p> |
| | | <p>菅直人内閣発足 チリ鉱山で落盤事故発生 「はやぶさ」が地球に帰還 朝青龍が引退 日本航空が事実上の倒産</p> |

| | | |
|--|------------------|--------------|
| <p>平成22年度 2010年</p> | <p>熊本県連の動き</p> | <p>大会の内容</p> |
| <p>②「当事者活動の役割」 座長 西 章男(九州ルーテル学院大学 講師) 報告者 江崎 公一(うき同志会前会長) 嘉手川 重一(沖縄県ふれあいセンター 相談員) 宮下 榮(長崎県精神障害者家族連合会 会長)</p> <p>③「活力ある日中活動の場について」 座長 村上 大作(福岡県しなのめ共同作業所 施設長) 報告者 藤本 知也(ワークセンターやまびこ) 富嶋 孝徳(大分県障害福祉サービス事 業所ひまわり苑施設長) 大城 篤志(沖縄県ソーシャルサポート アソシア就労支援員)</p> <p>④「雇用と就労支援」 座長 岩波 敏行(熊本県障害者職業センター 主任カウンセラー) 報告者 楠 達雅(熊本きぼう福祉センターP S W) 大藪 良一(宮崎県西諸地域活動セン ター菜の花指導員) 小蓬原 昭雄(鹿児島県精神保健福祉会 連合会)</p> <p>⑤「家族相談の意義」 座長 邑上 春美(熊本社会福祉専門学校講師) 報告者 杉本 ユキエ(菊陽病院家族会事務局長) 伊藤 武夫(長崎県精神障害者家族連合 会副会長) 藤 みよ子(福岡県地域活動支援セン ターそよかぜのまち施設長)</p> <p>大会テーマ「当事者・家族が安心して暮らせる社会 の実現を！～そんな時の来るまで、ままだ死なれん～」</p> | <p>精神保健福祉の動き</p> | |
| <p>時の動き</p> | <p>時の動き</p> | <p>時の動き</p> |

| | |
|---|---|
| <p>平成23年度 2011年</p> <p>※家族相談研修会 日時 平成二十四年二月十七日 場所 ウエルバルくまもと 講演「家族が家族の相談を受ける意味について」 講師 高村 裕子(全国精神保健福祉会連合会 相談員) ※第十八回ふれあいピック スローガン「手をつなぎ 心ひとつに ふれあいピック」</p> | <p>〔東日本震災の義援金をみんなねつとを通じて送金〕 ※熊本県連家族会一泊研修会 参加者百名 日時 平成二十三年十二月二日・三日 場所 玉名市白鷺荘別館 講演「総合支援法(仮称)について」 講師 金和 史岐子(たまきな荘 総括施設長) ※家族支援教室 ①阿蘇地域(平成二十三年七月十三日) 於阿蘇きぼうの家 約五十名参加 ②菊池地域(平成二十三年九月十四日) 於かもんゆす 約五十名参加</p> |
| <p>大会テーマ「障がい特性を反映した新法の実現を！」 (うき同志会 会長)</p> | <p>○第四十一回熊本県精神障がい者家族大会 日時 平成二十三年六月八日 場所 熊本県立劇場 演劇ホール 記念講演「家族を支える社会的支援の実現に向けて」 講師 西田 淳志氏(財団法人東京都医学総合研究所・心の健康プロジェクト主任研究員) シンポジウム「求められる医療・福祉とは？」 助言者 西田 淳志氏 報告者 家族の立場より 森 暉夫氏(県連家族会理事・精神保健福祉会天草地域家族会 会長) 報告者 当事者の立場より 江崎 公一氏</p> |
| <p>中国GDP、世界二位へ</p> | <p>東日本大震災(M9.0) 発生 野田佳彦内閣発足 英ウイリアム王子が結婚 FIFA女子W杯などで ジャパンが優勝</p> |

| <p>熊 本 県 連 の 動 き</p> | <p>大 会 の 内 容</p> | <p>精 神 保 健 福 祉 の 動 き</p> | <p>時 の 動 き</p> |
|--|---|--|--|
| <p>平成24年度 2012年</p> <p>熊本県に精神科救急情報センター開設 ※熊本県連家族会一泊研修会 日時 平成二十四年十二月七日・八日 場所 湯の児温泉「海と夕やけ」 講演「統合失調症の方への認知機能リハビリテーションについて」 講師 吉住 崇（熊本市こころの健康センター作業療法士） 中島志穂美（熊本市こころの健康センター心理相談員） 話題提供「障害者総合支援法の動きについて」 講師 宮田喜代志（熊本市心の障害者家族会長） ※家族支援教室 ①荒尾地域（平成二十四年七月十三日）於在宅総合センター 八十六名参加 ②人吉球磨地域（平成二十四年九月十四日）於東西コミュニケーションセンター 五十三名参加 ※家族相談研修会 日時 平成二十五年二月二十一日 場所 ウエルパルクまもと 講演「家族が家族の相談を受ける意味について」 講師 邑上 春美（熊本社会福祉専門学校 講師） ※第十九回ふれあいピック 参加者千二百三十七名 スローガン「手をつなぎ 心ひとつに ふれあいピック」 精神障がい者の家族に対する支援事業 熊本県補助事業・単年度事業 荒尾・玉名・八代・宇城・菊池・県連合計六か所を対象として実施。事務局の改修および研修会を行った。</p> | <p>○第四十二回熊本県精神障がい者家族大会 日時 平成二十四年六月六日 場所 熊本県立劇場 演劇ホール 活動報告「地域移行支援の取り組みについて」熊本県での取り組みの報告」 報告者 千代丸 智也氏（うきうき地域生活支援センター 施設長） 記念講演 テーマ「多職種チームによる訪問支援がこれからの地域を変える」～ACTはどんな期待にこたえることができるか～ 講師 藤田 大輔氏（大和診療所・ACTIZ er o 岡山顧問委） 大会テーマ「安心して暮らせる地域生活の実現を！」</p> | <p>・障害者権利条約批准 ・障害者虐待防止法施行 ・障害のある人もない人も共に生きる熊本づくり条例施行</p> | <p>東京スカイツリー開業 第二次安倍晋三内閣発足（自民党政権へ） 山中伸弥がノーベル生理学・医学賞</p> |

| 平成26年度 2014年 | 平成25年度 2013年 |
|--|---|
| <p>※熊本県連家族会「泊研修会」 日時 平成二十六年十二月五日・六日 場所 山鹿市「富士ホテル」 講演「アウトリーチ支援と地域移行のこれから」 講師 春木 あゆ美（メンタルクリニック保田窪） ※家族支援教室 ①玉名地域（平成二十六年七月二十五日）於玉名市福祉センター 五十二名参加 ②上益城地域（平成二十六年九月二十六日）於矢部町健康福祉センター千寿苑 八十一名参加 ※家族相談研修会「みんなねっと委託事業となる」 日時 平成二十七年二月二十七日 場所 熊本県連家族会館 講演「家族相談の意義・家族相談の進め方」 講師 邑上 春美（熊本社会福祉専門学校 講師） ※第二十一回ふれあいピック スローガン「手をつなぎ みんなで咲かそう 笑顔の輪」</p> | <p>障害者総合支援法施行 ※熊本県連家族会「泊研修会」 参加者百二十五名 日時 平成二十五年十二月六日 場所 天草「亀屋ホテル」 講演「精神科医療における家族の治療的役割」 講師 酒井 保之（酒井病院 院長） ※家族支援教室 ①宇城地域（平成二十五年七月二十六日）於宇土市民会館 九十二名参加 ②菊池地域（平成二十五年九月二十七日）於かもんゆーす 二十八名参加 ※熊本県精神障害者家族教室（前項精神障害者地域生活支援協議会「あみ」九州ブロック研修会共催） 参加者七十名 日時 平成二十六年二月十四日 場所 アスパル富合 ※第二十回ふれあいピック スローガン「手をつなぎ 心ひとつに ふれあいピック」</p> |
| <p>六月二十日 ○第四十四回熊本県精神障がい者家族大会 日時 平成二十六年六月二十日 場所 熊本県立劇場 演劇ホール 記念講演 「精神障がいの新たな理解から生まれる新たな希望」リカバリー・モデルが中心となった世界の精神保健医療の動向」 講師 伊勢田 堯氏（代々木病院 精神科医） 行政説明 「熊本県精神科救急情報センターの現状報告」 大会テーマ 「当事者、家族が求める精神保健医療福祉の実現を！」</p> | <p>○第四十三回熊本県精神障がい者家族大会 日時 平成二十五年六月十四日 場所 熊本県立劇場 演劇ホール 記念講演 「リカバリー志向の精神科医療の動向」 講師 佐藤 光源氏（東北大学名誉教授・こころのバリアフリー研究会代表） 新法説明 「保護者制度を知ろう」 講師 宮田 喜代志氏（熊本市心の障害者家族会 会長） 大会テーマ 「法制度による家族支援を！」</p> |
| <p>・アルコール健康障害対策基本法施行</p> | <p>・障害者総合支援法施行 ・障害者優先調達推進法施行 ・障害者雇用促進法改正 ・いじめ防止対策推進法施行</p> |
| <p>消費税が八パーセントになる ソチ五輪フィギュアで羽生結弦が金メダル 御嶽山が噴火</p> | <p>長嶋茂雄と松井秀喜に国民栄誉賞 富士山が世界文化遺産に登録 中国の大气汚染が深刻化</p> |

| 平成28年度 2016年 | 平成27年度 2015年 | |
|--|---|------------------|
| <p>公共交通運賃軽減に向け、全国運動展開</p> <p>※熊本県連家族会一泊研修会</p> <p>日時 平成二十八年十二月二日・三日</p> <p>場所 山都町矢部保健福祉センター「千寿苑」</p> <p>講演「震災百人百話」益城病院、通院患者さん達の地震体験談」</p> <p>講師 松永 哲夫（社会医療法人まじき益城病院院長）</p> <p>ビデオ研修「知っていますか？統合失調症」正しい理解と回復への道」</p> <p>活動報告「上益城きぼうの家・あみーキッチン」の取り組み」</p> <p>報告者 井手 三枝（上益城きぼうの家管理者）</p> <p>※家族相談研修会</p> <p>日時 平成二十九年二月二十三日</p> <p>場所 熊本きぼう福祉センター</p> <p>講演「家族相談の意義・家族相談の進め方」</p> <p>講師 邑上 春美（熊本社会福祉専門学校 講師）</p> <p>※第二十三回ふれあいピック（地震により中止）</p> | <p>※熊本県連家族会一泊研修会</p> <p>日時 平成二十七年十二月四日</p> <p>場所 荒尾市在宅総合センター・ホテルヴェルデ</p> <p>講演「社会で支える精神障がい」</p> <p>講師 緒方 明（荒尾こころの郷病院 副院長）</p> <p>ビデオ研修「マディソンモデル活用事業の三年間」</p> <p>※家族支援教室</p> <p>①天草地域（平成二十七年七月二十二日）於天草地域振興局 四十三名参加</p> <p>②八代地域（平成二十七年九月十七日）於八代市保険センター 八十二名参加</p> <p>※家族相談研修会 五十二名参加</p> <p>日時 平成二十八年二月十九日</p> <p>場所 熊本きぼう福祉センター</p> <p>講演「家族相談の意義・家族相談の進め方」</p> <p>講師 邑上 春美（熊本社会福祉専門学校 講師）</p> <p>※第二十二回ふれあいピック 参加者千三百八十六名</p> <p>スローガン「心の扉を広げ 羽ばたこう ふれあいピック」</p> | <p>熊本県連の動き</p> |
| <p>○第四十六回熊本県精神障がい者家族大会</p> <p>日時 平成二十八年九月二九日</p> <p>場所 熊本県立劇場 演劇ホール</p> <p>記念講演 「精神障害と差別解消法」身近な問題に差別解消法をどう活かすか」</p> <p>講師 池原 毅和氏（東京アドヴォカシー法律事務所 弁護士）</p> <p>活動報告 「平成二八年熊本地震と被災障がい者支援の経緯」</p> <p>報告者 花田 昌宣氏（熊本学園大学社会福祉学部福祉環境学科）</p> <p>大会テーマ 「広めよう 誰もが安心して暮らす強めよう 地域の支援！」</p> | <p>○第四十五回熊本県精神障がい者家族大会</p> <p>日時 平成二十七年六月一九日</p> <p>場所 熊本県立劇場 演劇ホール</p> <p>記念講演 「人が「回復する」とはどういうことか」家族・当事者・精神科医としてお伝えしたいこと」</p> <p>講師 夏苺 郁子氏（やきつべの径診療所 医師）</p> <p>活動報告 「これからの家族会運動が目指すもの」みんなねっとが提唱する『家族支援』をスムーズに展開するための三つの視点」</p> <p>報告者 宮田 喜代志氏（熊本市心の障がい者家族会 会長）</p> <p>大会テーマ「家族だけで抱え込まない社会の実現を！」</p> | <p>大会の内容</p> |
| <p>・障害者差別解消法施行</p> | <p>・生活困窮者自立支援法施行</p> <p>・子ども・子育て支援法施行</p> | <p>精神保健福祉の動き</p> |
| <p>熊本地震（M7.3）発生</p> <p>相模原障害者施設殺傷事件</p> <p>オバマ大統領が広島を初訪問</p> <p>清原和博が覚せい剤所持で逮捕</p> <p>「ボケモンGO」世界各国で一大ブーム</p> <p>デヴィッド・ボウイ死去</p> | <p>慰安婦問題日韓合意</p> <p>ラグビーW杯で日本が三勝の歴史的快挙</p> <p>マイナンバー制度が開始</p> <p>パリ同時多発テロ事件が発生</p> | <p>時の動き</p> |

| 平成30年度 2018年 | 平成29年度 2017年 |
|---|--|
| <p>九州ブロック家族研修会を熊本市で開催 森暉夫会長就任</p> <p>※熊本県連家族会一泊研修会 日時 平成三十年十二月七日・八日 場所 中小企業大学校人吉校 講演「精神疾患の背景にある発達症について」支援の進展のために」 講師 興野 康也（吉田病院 地域連携室） 活動報告「精神保健ボランティアグループ麦の会の取り組み」 報告者 地内 豊子（ボランティアグループ麦の会会長） ※家族支援教室 ①上益城地域（平成三十年七月二十日）於清和保健センター 参加者三十八名 ②宇城地域（平成三十年九月二十一日）於宇土市民会館 参加者三十五名 ※家族相談研修 参加者二十二名 日時 平成三十年十月二十六日 場所 熊本県連家族会館 講演「家族が家族の相談を受ける意味について」</p> | <p>みんなねっとと本部を通して熊本地震による義援金受領 ※熊本県連家族会一泊研修会 百三十五名参加 日時 平成二十九年十一月十七日 場所 植木町文化センター 講演「病氣と共に生きる」 講師 矢崎 直人（向陽台病院副院長） 講演「消費者トラブルの最新情報」だまされない処方箋」 講師 坂口 真理（熊本消費者協会 理事） ※家族支援教室 ①水俣市北地域（平成二十九年九月二十二日）於もやい館 七十名参加 ②熊本市（平成二十九年十月二十七日）於熊本きぼう福祉センター 四十二名参加 ※第二十四回ふれあいピクニック 参加者千六百六十三名 スローガン「思いやり 笑顔満開 ふれあいピクニック」</p> |
| <p>○第四十八回熊本県精神障がい者家族大会 日時 平成三十年六月二十九日 場所 熊本市富合ホール（アスパル富合・熊本市南区役所内） 記念講演「人はなぜ病を得るのかー見えるものと見えないものの行方」 講師 糸川 昌成氏（公益社団法人東京都医学総合研究所副所長兼病院等連携研究センター長） 行政報告「熊本県の精神科救急医療体制について」 報告者 藤本 浩二氏（熊本県健康福祉部子ども障がい福祉局障がい者支援課） 大会テーマ「障がいを受容し、共に生きる地域社会を築こう！」 ○九州ブロック家族会精神保健福祉推進活動研修会 熊本大会 日時 平成三十一年二月七日・八日 場所 KKRホテル熊本 講演「災害と障害」 講師 東 俊裕（熊本学園大学教授）</p> | <p>○第四十七回熊本県精神障がい者家族大会 日時 平成二十九年六月二十三日 場所 熊本市富合ホール（アスパル富合・熊本市南区役所内） 記念講演「家族のリカバリーを願って」真実に向き合う力をつけるには」 講師 飯塚 壽美氏（埼玉県精神障害者家族会 会長） 実践報告「親あるうちに成年後見」家族ではなく社会で支える」 報告者 村上 泰幸氏（NPO法人成年後見安心サポートネット熊本） 大会テーマ「手に入れよう！安心できる 家族の暮らし」</p> |
| <p>・ギャンブル依存症対策基本法施行 措置入院の運用に関するガイドライン</p> | <p>トランプ大統領が就任 パンダ「シャンシャン」が公開 金正男氏マレーシアの空港で殺害 「ヒアリ」を神戸港で発見 十四歳棋士、藤井四段が二十九連勝の新記録</p> |
| <p>西日本で記録的豪雨 藤井聡太最年少七段 大坂なおみがテニス全米オープンで初優勝 羽生結弦に国民栄誉賞授与 さくらももこ死去 豊洲市場が開場</p> | <p>米朝首脳会談で拉致事件解決への道が開ける 史上初の米朝首脳会談が開催 米朝首脳会談で拉致事件解決への道が開ける 史上初の米朝首脳会談が開催</p> |

| 熊本県連の動き | 大会の内容 | 精神保健福祉の動き | 時の動き |
|--|--|-----------|------|
| <p>平成30年度 2018年</p> <p>講師 音光寺 三恵(桜が丘病院 臨床心理士) ※第二十四回ふれあいピック 参加者千四百七十七名 スローガン「輝け 心おどらせよう ふれあいピック」</p> | <p>記念講演「統合失調症療養者の親が経験した困難と支援」家族の語りを通しての「考察」 講師 田野中 恭子(佛教大学保健医療技術学部看護科講師) 実践報告「運動(スポーツ)することがなぜいいのか」特徴や状態に合わせた方法」 講師 湯原 徹(益城病院 体育療法士) 分科会 ①「家族会と地域福祉」 座長 小幡 恭弘(全国精神保健福祉会連合会) 報告者 一木 猛(福岡県精神保健福祉会連合会会長) 渡邊 いづみ(菊陽病院家族会事務局長) 飯塚 幸二(玉名地域精神障害者家族会会長) ②「当事者活動の役割」 座長 邑上 春美(熊本社会福祉専門学校選任講師) 報告者 磯田 重行(リカバリーセンター久留米施設長) 永田 雄大(地域活動支援センターアクトニオ利用者) ③「活力ある日中活動の場について」 座長 村上 大作(一般社団法人てとて理事長) 報告者 森口 哲也(福岡市社会福祉事業団障がい者地域生活・行動支援センターかむむ所長) 笹木 小百合(天草きぼうの家所長) 小蓬原 千鶴留(社会福祉法人ルピナス会理事長) ④「親なき後を考える」 座長 西 章男(九州ルーテル学院心理臨床学 科 准教授) 報告者 村上 泰幸(NPO法人成年後見安心サポートネット熊本理事) 今泉 真一(相談支援センター菜の花相談支援専門員) 本條 義和(全国精神保健福祉会連合会 みんなねっと 理事長) ⑤ワークショップ「プレイバックシアター」語り と分かち合いのひととき」 講師 プレイバックシアター劇団Life & Once(ライフとワンス) 大会テーマ「家族の負担軽減に向け、支援制度の実 現をめざそう！」</p> | | |

| 令和元年度 2020年 | 平成31年・令和元年度 2019年 |
|---|--|
| <p>熊本県連家族会創立五十周年</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大のため年間の事業運営が困難となる</p> | <p>※熊本県連家族会一泊研修会 参加者八十三名 日時 令和元年十二月六日・七日 場所 国際ホテル菊池「笹の家」 講演「当事者からのメッセージ〜ご家族に伝えたい事〜」 講師 中村 敏（ふれあいの会） 講演「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて」 講師 梅野 由美子（きくよう地域生活支援センター施設長） ※家族支援教室 ①阿蘇地域（令和元年七月十九日）於阿蘇きぼうの家 参加者四十七名 ②八代地域（令和元年十一月二十二日）於八代保健所 参加者五十四名 ※第二十五回ふれあいピック スローガン「手と手をつないで 心かよわせ ふれあいピック」 新型コロナウイルス感染拡大予防のため行事が中止となる ※春祭り中止（令和二年三月七日予定） ※県知事陳情中止（令和二年三月十二日予定） ※予算総会の書面評決</p> |
| | <p>○第四十九回熊本県精神障がい者家族大会 日時 令和元年十月四日 場所 熊本県立劇場 演劇ホール 記念講演「誰もが孤立しない地域社会を目指して」 KHJ家族会の実態調査から長期高齢化と八〇五〇問題の今後を考える」 講師 伊藤 正俊氏（KHJ全国ひきこもり家族会連合会理事長） 活動報告「熊本県ひきこもり地域支援センター『ゆるここ』の取り組み」 報告者 西田 稔氏（熊本県精神保健福祉センター）</p> |
| | |
| | <p>新元号「令和」を発表 ラグビーワールドカップ日本大会が開催 徳人天皇即位の礼 中国の探査機が月裏側に着陸、世界初 イチロー選手が現役引退を発表 ブラックホールの撮影に初成功 世界遺産・首里城で火災</p> |

編集後記

県連会報「きぼう四十三号」を今年も発行することができました。

今年度は県連家族会の創立五十周年をといて節目を迎え、記念誌発行に際し、寄稿を始め多大なご協力をいただき大変ありがたく存じています。

令和二年は多難な一年となりました。新型コロナウイルス感染症拡大に翻弄されましたが、ようやくワクチンの接種がはじまりました。「令和二年七月豪雨」等の自然災害の復興も少しずつですが進んでおり明るい兆しが見えてきました。家族会の五十年と同じ歩みのような気がします。不安で先が見えない中、模索しながらも一人一人が歩みを進め繋いでいきました。長いみちのりだったと思います。

これからの五十年も様々なことがあると思います。沢山の方に寄り添っていけるよう、この冊子の名前である「きぼう」を胸に歩んでいきたいと思えます。今後とも皆さまのお力添えを頂きながら邁進したいと思えますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

令和三年三月吉日

編集子

熊本県連家族会創立50周年記念誌

きぼう43号

令和3年3月

発行 一般社団法人 **熊本県精神障害者福祉会連合会**

連絡先 〒861-4106 熊本市南区南高江7丁目8-77
TEL 096-358-4054
FAX 096-358-3337

印刷 社会福祉法人 **熊本県コロニー協会**

連絡先 〒860-0051 熊本市西区二本木3丁目12-37
TEL 096-353-1291
FAX 096-353-1294